明治四十二年六月二十日發行
（明治二十年十月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百三十五號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
內務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百參拾五號目次

大日本婦人衛生會

七月例會通知

來る七月三日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ッ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

演題未定

醫學博士　森　林太郎君

明治四十二年六月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら事るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども此の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち頒か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節には姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會の者には會員證を交付す（交付手續は末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に本會事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は場合に由り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記録雑務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして選薦聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々員に紹致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他所要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の帳簿會員の増減等を細告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事會印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし開後に數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雑誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雑誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

雑件　第三十條　本會は毎月一回雑誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは物品等を本會に寄附する者あるときは本會々員の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を[illegible]冊に登記し尚本會雑誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割増）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金として小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麹町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき行爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは勸告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁 周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子
（いろは順）
幹事 鳩山春子
同 羽田三緒子
同 岡田徳子
同 高木かう子
同 山本多穂子
同 松平芳子
同 三浦敬子
評議員 石川貞子
同 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 西升子
同 土肥多越子
同 緒方悦子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山亀子
同 吉武輝枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 中濱芳子
評議員 山口貞子
同 子爵夫人 松井正子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮本樂子
同 宮下咲子
各支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤、

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士 入澤達吉君
理學博士 飯島魁君
ドクトル 伊澤信平君
色川圀士君
醫學博士 伊東祐彥君
ドクトル 飯盛挺造君
醫學博士 伊藤隼三君
理學博士 石川千代松君
赤十字社內科主任 岩井禎造君
醫學士 石原久君
醫學士 磐瀬雄一君
醫學士 石原喜久太郎君
男爵 濱尾新君
醫學博士 濱田玄達君
法學博士 鳩山和夫君
東京 萩原彌四郎君
醫學博士 芳賀榮次郎君
長谷川泰君
新潟 長谷川一詮君
小兒科 小原頼之君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學博士 林春雄君
醫學博士 佐藤達次郎君
醫學博士 緒方正規君
步兵中佐 堀內文次郎君
醫學博士 土肥慶藏君
醫學博士 岡田和一郎君
醫學博士 大澤謙二君

醫學士 大西秀治君
醫學博士 大澤岳太郎君
一等藥劑官 恩田重信君
醫學士 若杉喜三郎君
醫學士 渡邊房吉君
男爵 加藤弘之君
醫學博士 加藤照麿君
醫學士 賀古鶴所君
醫學博士 河本重次郎君
醫學博士 片山國嘉君
醫學士 川上雅量君
醫學博士 樫田龜一郎君
醫學博士 金杉英五郎君
醫學博士 笠原光興君
醫學士 唐澤光德君
醫學士 河野衛君
醫學博士 高橋順太郎君
ドクトル 高山紀齋君
醫學博士 高木兼寬君
法學博士 高木豐三君
醫學博士 田代義德君
新潟 田代亮助君
男爵 高崎正風君
醫學士 竹中成憲君
醫學士 高田耕安君
新潟病院長 高橋辰五郎君
藥學博士 丹波敬三君
醫學士 高橋貞碩君
藥學博士 田原良純君
醫學士 田村光顯君
醫學博士 久保猪之吉君
醫學士 米山彥郎君
二等軍醫正 星野葆光君
醫學博士 宮本叔君
三等軍醫正 橫井忠國君
帝國教育會長 辻新次君
理學博士 坪井正五郎君
醫學博士 長與稱吉君
男爵 南部甕男君
理學博士 藥學博士 長井長義君

醫學博士 遠山椿吉君
醫學博士 中濱東一郎君
醫學士 黑田玄通君
醫學士 栗本庸勝君
海軍中佐 小笠原長生君
醫學士 村松鍬三君
醫學博士 隈川宗雄君
醫學博士 栗本東明君
醫學博士 山田鐵藏君
醫學士 山田弘倫君
醫學士 山根正次君
岡山 山川春二君
傳染病研究所技手 丸山長四郎君
ドクトル 松山陽太郎君
ドクトル 此木信六郎君
盲啞學校長 小西信八君
廣島 小泉賀君
醫學士 古川榮君
東京 布施正顯君
男爵 後藤新平君
帝國大學名譽教授 エ、ベルツ君
醫學士 甲野棨君
寺田勇吉君
醫學士 寺田豐作君
醫學士 寺田織尾君
子爵 秋元興朝君
前軍醫總監 足立寛君
ドクトル 富士川游君
高崎醫會長 土谷全次君
產科婦人科 水原漸君
ドクトル 久保田誠齋君
醫學博士 佐々木政吉君
醫學士 淺田決君
醫學博士 朝倉文三君
ドクトル 朝山義六君
醫學博士 吾妻勝剛君
醫學博士 佐藤三吉君
醫學士 櫻井郁二郎君
ドクトル 佐伯理一郎君
醫學博士 榊順次郎君

醫學博士 榊保三郎君
醫學士 佐藤得齋君
醫學博士 櫻井恒次郎君
醫學博士 桐淵鏡次君
醫學士 北村精造君
醫學博士 北島多一君
醫學博士 北川乙治郎君
醫學博士 木下正中君
醫學士 北島小太郎君
醫學博士 北里柴三郎君
醫學博士 三浦守治君
醫學博士 三浦謹之助君
小兒科專門 宮本仲君
理學博士 箕作佳吉君
醫學博士 三島通良君
醫學博士 三宅秀君
醫學博士 三輪信太郎君
伯爵 土方久元君
醫學博士 島村俊一君
醫學博士 弘田長君
ドクトル 日高昂君
ドクトル 須田卓爾君
醫學士 瀧川德君
醫學博士 木村德衛君
醫學博士 森林太郎君
醫學士 笹川三男三君
醫學士 波多野惇君
醫學博士 吳秀三君
ミス リツデル
ミス ヒユース
ミセス コーツ
ドクトル 菊池循一君
醫學士 橋本左武郎君
醫學士 鳥居春洋君
醫學博士 土田卯三郎君
ドクトル 佐藤運雄君
ドクトル 西山信光君
醫學士 澤崎寬制君
藥學士 石津利作君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學士 森田正馬君



會總會支形山

講演

結核の豫防撲滅

醫學博士　金杉英五郎

私は、如何にして結核を豫防撲滅すべきか、と云ふ極く知れ亙つたる問題に就て、暫時御清聽を煩はさうと思ひます。歐羅巴では、衞生上に就て、上水下水、工場衞生と云ふ樣な事を說くは、まう昔の物語となつて居りまして、今日になつては、重に結核豫防撲滅と云ふ事に就て、衞生上全力を盡して居りまする譯で御座います。結核は申上ぐるまでもなく、種々の病氣の中に、最も怖るべき、最も嫌らふべき病氣であると云ふ事は、申すまでもなきことであります。で、先づ衞生上から申しまするど、人の最も恐れて居りまする虎列剌などよりも、尙非常に惡るい怖る可き病氣となつて居るのであります。何となれば、虎列剌病の如き急性傳染病は、總て驟雨の如きものであつて、一度一つの場所に流行致しますれば、是れが一年中所々に流行傳播すると云ふ樣な事のない病氣であります。是れに反して、結核は恰も霖雨の如きものであります。而して春夏秋冬洋の東西を問はず、亞弗利加の一部分を除くの外は、全世界の春から冬迄のべつに蔓延して居りまする處の一の慢性の傳染病であります。吾々に取りましては是程恐ろしい病氣はないと云ふ事になつて居る程のもので御座ます。我日本國に於きましては、東京、大阪、神奈川、福井、三重、北海道等に、最も多く御座いまして、沖繩、岩手、宮城、宮崎、秋田、山形等が比較的少ない場所であります。

明治三十八年の統計に就きまして、東京市で、結核

病で死亡致しましたる者が、六千七百六十九人であります。其中肺結核が、五千二百十二人、其他の者が種々の場所の結核であります。例へば、關節の結核、皮膚の結核と云ふ様なものであります。三十八年度の東京市總死亡數の三萬五千二百七十七人に對して丁度七分の一に當つて居る譯であります。全く死亡數の七分の一は、結核の爲に斃るゝと云ふ様な有様になつて居るのであります。是の病氣の原因は皆様素人の御方も既に御存知の通り、コッホなる人が發見致しましたる結核菌と云ふ事は、まう定つて居るのであります。昔は日本計りでなく歐羅巴の一部分に於きましても、癆症即ち結核が、遺傳であると云ふ說を唱へて居つた者もありまして、誰も遺傳病であると云ふ様な事に考へて居つたのでありまするが、實際遺傳病ではなくして、一つの傳染病であると云ふ事が、段々知れたのであります。殊に其病原の黴菌を發見致しまして以來、誰も是れを疑ふ者が無い程になつたのであります。然れば一家族中其病氣に罹る者ある時は、一の宗族に於て非常に其病氣に罹る者が多く、六人も七人も家族の者が罹る事があるが、是を何うして遺傳でないか、何處までも遺傳說を以て說明せられないかと云ふ人もある。又さう考へる者もあるのであるが、是は理由のある事であります。第一には、結核に抵抗する力の極く弱い體質を遺傳する事、第二には、親子兄弟姉妹、皆一家族の集つて生活を營む場合には、知らず〳〵傳染するのであります。其爲に恰も宗族に遺傳する如く見ゆるのでありまするが、實際は皆お話した様な譯であります。是の病氣に感染せしむる、最も導きとなるべきものは、何んで御座いまするかと言へば、痰であつて、即ち結核患者の喀出しましたる痰汁であります。夫れが最も是の病を傳播せしむるに於て便益なるものであります。一度他に喀出しましたる處の痰汁は、器具或は衣服、夫から自分の手許にありまする處の、總ての品物等に附著致しまして其物が乾きまして、散藥の如く極く細くなりまして

諸方へ飛廻つて、何處へでも遠慮なしに飛込むのである。其入りまする場所は、一方は呼吸器の方から入るのであります。又一方には、消化機から入込みまする。人々の試驗致しまする處に依りまするに、一度喀出したる痰の中に其黴菌の生活して居りまする時期は、七ケ月位は乾いても活きて居るのであります。一度喀出したる痰は乾いても、それが粉藥の樣になつて、六ケ月の間諸方に感染する丈の力があるのでありますから、甚だ畏いものであります。呼吸器、つまり、鼻とか或は咽喉等より感染すると云ふ事に就いての良い例は、コルチットと云ふ人の報告が一番興味のある報告であります。コルチット氏の報告に據りまするに、二十二名の役人のある町役場で、二十二名が町政を掌つて、二十二名が毎日顏を突合せて仕事をして居つた、其場合に於きまして其中の一人が不幸にして肺結核に罹つたが、病を推して始終他の二十一名の同僚と同じく事務を執つて居りました、其際に頻に歩るく場所などに無遠慮に痰をしたので、夫れが原因となりまして、遂に二十一人の中十四人が、殘らず肺結核になつたと云ふ例を報告をして居りました。それから又、結核患者を收容して置きまする處の病院内の、結核患者の寢て居まする部屋、或は夜具等の塵埃の中から結核菌を發見致しましたり、或は其塵の一部分を取り、越幾斯の如くしまして、動物に植ゑて見ました處が、結核を發生したと云ふ樣な例は、隨分人々の多く報告を致したる處であります。まだ昔は、是の喀出しましたる痰の所置の極く不完全なる時代に於きまして醫者や看護婦などが、多く結核に感染したものでありますが、今日の樣に、痰汁を能く始末する樣に至りましては、非常に是の關係が減じましたが、明治十八九年から二十年、其時代には、醫者も看護婦も隨分結核に冒されたものであります。今日になりましては、非常に其弊が減りましたが、是は全く痰汁を始末する事の非常に宜くなりましたと云ふ事が、關係の深い事を示しまする良い例であると考へるの

であります。紐育のハンマと云ふ人は、結核にて斃れました一人の婦人の住んで居りました家から、塵埃を採集めまして、一ッの越幾斯の樣な物を拵へまして、夫を四匹の豚に植ゑて見ました處が、其中の三匹丈は、十分なる結核症を發して斃れましたので又同じく結核で斃れました人の住んで居りましたる處の塵埃を採集めまして、前の如くして又四匹の豚に植ゑて見ましたけれども、其患者の住んで居つた處より取つたるものは、少しも豚に感染しなかつたと云ふ事で御座いました。是は何故であつたかと申しまするに、一方の患者の家は、平生衞生の諸規則を能く守りましたる爲に、其感染の恐るべきを知り之に用心して居つたる家であつたが爲に、其家の塵埃には、結核菌を含んで居らなかつたのである、と云ふ事實を說明して居りまする譯であります。又ハンマと云ふ人は、市街を往復致しまする處の馬車の中から、最も不潔なる塵埃を採りまして、是を十六匹の豚に植ゑました處が、其中の五匹丈は結核に罹つたので御座います。又或不潔ならざる所の塵埃を取りまして、十二頭の豚に植ゑました處が、矢張り三頭丈は結核で斃れました。其殘りの五頭も、稍健康狀態で無いと云ふ事を知りました爲に、是を調べました處が、何れも結核の徵候を呈して居つたと云ふ事があります。夫故に清潔なる場所でも尙結核菌などの存在するものであると云ふ事は、餘程知らなければならぬものであります。要するに、清潔なる場所、不潔なる場所に拘はらず、何處にでも是結核菌の散蔓して居るものであると云ふ事を考へねばならぬと云ふ宜い例であります。其中の一つの場所の如き、如何にも結核菌の塵埃の中に存在する事が多い故に、甚だ危險であると云ふ事で營業を停止せしむべく告發したと云ふ事であります。夫から消化機から入りまするのは、何う云ふ筋道に依つて入るか重なる點は飲食物と共に入る事であります。今日の處では、牛の結核と人間の結核とは、種類が違ふと云ふ議論もありましたが、多くの人々の說に由りま

すると衛生上からは、矢張同じものであるとして、警戒を加へなければならぬと云ふ事であります。而して牛の結核と云ふものは却々多いのであります。我國に於きましては、割合に少ない。六%位しかないのであります。けれども歐羅巴、亞米利加の牛にしましても、或は歐羅巴、亞米利加の牛と日本の牛との間に出來た雜種の夫等の者に就て調べまると、頗る多い。歐羅巴に於きまして、家畜の衛生法に無頓著なる土地には、七十%位牛の結核がある。

斯の如く、牛の結核は隨分多いものでありまするから、今日人間の結核と牛の結核と異ると云ふ議論あるにも拘はらず、衛生上に於きまして、大に注意しなければならぬと云ふ事になつてありました。即ち吾人が日常最も多く取る所の牛乳であります。此頃はさうでもありませぬが、昔は皆腹膜結核及び腸結核などは、殆んど牛乳から來るものであると云ふ議論を立てた人もある位な事でありました。是は大に注意しなければならぬ事で、又吾々が日常最も注意すべき事は、人の家に棲んで居る處の、種々なる蟲であります。蠅とか、蚊とか、或は蚤とか云ふ様なものである。殊に蠅は、能く結核の痰なぞを嘗めて、香の物などの上に飛んで來たり、魚の上に飛んで來たりして、散歩して居る奴で、夫は獨り口の中に結核菌を含んで居る計でなしに、蠅の腹などにもある。今まで痰汁の上に居つて、黴菌が腹に附著したりする、其儘食物の上などに持て來て、捺り附けるやうな事が隨分ある。夫から結核患者の住んで居つた部屋に居つた蠅の腹から結核菌を發見したと云ふ事などは、是迄隨分人々の報告した處でありまして、誠に危險な媒介者であります。餘程これも注意しなければならぬと思ひます。次に此の眼目たる豫防撲滅に就て御話致したいと思ひます。豫防法にも種々ありまするが、第一に、小兒期に於きまして身體を強壯にすること、即ち結核に對する抵抗力を強くすると云ふ事は、最も必要な事柄であります。

殊に自分の宗族に結核系、例へば父が結核であつたとか、兄が結核であつたとか云ふやうな家を相續しまする時は、此點には餘程注意して、滋養強壯の方法を、小兒期から骨を折つてやらなければならぬ事であります。殊に小兒期に於きましては、能く腺を冒します。是が結核の始めであると云ふ位になつて居りまするからして、頸其他方々の腺が腫れて居りまする樣なものは、能く注意して、海水浴をさせるとか、或は頻に運動をさせるとか、定つたる滋養物を與へるとか云ふやうな事にして、結核に抵抗する力を非常に強くせねばならぬ事であります。今でもさう申しまするが、昔は有力な議論であつたので、腺の腫脹は、小兒期に於ける結核にて、春期發動期に到て始めて肺に結核が飛込むものであると申した程にて、夫故に前には腺の腫脹と云ふ事を非常に心配したものである。今日に於きましても、腺の腫脹は恐ろしいものではありますが、昔考へた程恐ろしいものではない。昔は殆んど結核性と云ふやうに定めて居つた程のものであります。今日では夫程にはないけれども、注意せねばならぬものであると思ひます。夫から此次は、即ち今日御話致したい眼目であります。結核治療院を設立する事であります。殊に貧窮なる患者の收容所を處々に設立する事であります。結核豫防法としては、何うしても是の結核の病院と云ふものを、所々に設立するの外はないと云ふことは、歐羅巴に於きましても、亞米利加に於きましても、今日動すべからざる説となつて居る樣な譯であります。殊に獨逸に於きましては、獨逸鑛山業組合が、バルツ山のジルツフアエンと云ふ處に、百十五名を收容すべき一の肺病院を拵へ、プロスハンスハルブと云ふ處に、二十七萬三千圓を以て、同樣に一の病院を拵へ、ビルテンブル府療養保險組合が、百名を收容すべき收容所を設立したのが、先づ此が肺病收容所設立の創であります。最近に至りましては、昨年四百五十萬「マルク」を建設費に充てまして、伯林から一時間半程かゝる場所のベイリッ

ッと云ふ處に、千人も容るゝ様な收容所を拵へ、又スチルンベルヒに勞働者給養協會がありまするが、夫も多くの金を支出致しまして、大規模の肺病收容所を設立致して居ると云ふ様な譯で、獨逸全國に於きましては、今日殆んど百十二程、肺病收容所を拵へて置きまする譯で御座います。で此の肺病收容所を拵へて以後の肺結核の蔓延狀態は、如何であるかと云ふと、非常に成績が宜いのであります。何うして成績が宜いかと申しまするのに、是は說明するまでもない話でありまして、一に肺結核患者を或場所に限局して收容して居る爲に、傳染病の力が非常に少なくなり、又一ヶ所に收容して置きまする爲に痰汁を處々に無遠慮に咯出すると云ふ機會が、非常に少くなりまして、此點に就て、知らず／＼相互の間に、非常なる豫防撲滅の方法と相成りまする譯であります。夫から、歐羅巴に於きましても、日本でも、近頃喧しい事でありまするが、痰の所置と云ふ事が、非常に喧しい。結核患者でなくとも、決して痰を濫に、方々に咯出してはならない。殊に結核の疑ある患者が、痰汁を咯出する如き事あれば、實に公德の何者たるを知らざる者であると、人が嘲ける程になつて居る。さう云ふ有様で、何れも痰汁を始末すると云ふ事が、非常に喧しくなつて居る。夫故公園などを散歩致しまして、痰を咯出しまするのに、人が居ると何うも遠慮をして、咯出惡いと云ふ様になつて居り、今日では、人が痰を咯くと、人が振返つて見る位非常なる悖德者と看做さるゝと云ふやうな狀態になつて居ります。これで肺結核に惱まされて居りまする患者は「ポケット」に一ッの痰咯を入れて歩るくと云ふ様にして、出る度に、處々に散蔓せざるやうに、非常に注意して居る様な譯であります。

伯林のフレンケルと云ふ人の極く近頃報告された事は、獨逸で肺病收容所を拵へました爲め、如何に肺病豫防撲滅に、好成績を得たかと云ふ事の報告であります。此フレンケルと云ふ敎授は、總て肺結核豫

防の事に就て久しく非常に盡力して居りまする獨逸の一人の學者であります。此人がプロイセン國三十年來死亡の統計に徴して、總死亡比例並に結核死亡數の現象を統計上に示しまして、實に著しき結核死亡者を減少せしめたる事を説明されました。本年二月伯林の醫學會に於きまして、精しく話された其大要をお話致しますれば、一千八百七十五年から一千八百八十一年までは、死亡比例が、殆んど同一の程度に止つて居りましたが、其後です、即ち一千八百八十二年からして段々死亡數が減少して來ました。丁度肺病收容所を拵へ始めたる時から、段々死亡數が減じて居りまするが、一千九百年代に及びましては、著しき減少を見る樣になつて、肺結核の爲に斃るゝ者が、非常に減つて來たのを以て、是を比較して見るのに、一千八百八十八年の始に方つて、人口一萬に就きまして、一年に二百六十三より二百四十九までの死亡數を見ましたのであります。然るに千九百年代には、百八十九と云ふ少數になつて參つて殆んど半數です。又結核死亡數は、前記の三十年間の人口一萬に就き一年に三十二、五十七、二十五に減少を致して居ります。斯の如き減少は、兎に角結核收容所が處々に勃興したるに因るものであると云ふは、疑のない事であると申された譯であります。而して尚附加へて、同氏の申しまする事には、此良成績を得たる事は、肺病收容所設立が、確に一大原因であるけれども、亦コッホ氏が結核菌を發見致してから以來、結核に對する豫防法、衞生法等が、合理的に行はるゝ樣になつた、と云ふ事も亦大に關係ある、と云ふ事を申さねばならぬと記載してあります。兎に角フレンケル氏の報告に由りまして、肺病收容所の、肺結核の豫防撲滅には、非常の效能あると申さねばなりませぬ。

それから千九百六年、今より二年前に、伯林市の保險協會年報に依りまするに、千〇九十年より千〇九十六年に至る間に於きまして、職工疾病保險法の範

園に於きまして、救濟を受けましたる者の中の肺癆患者即ち肺結核患者が、漸次其數を減じて參りました。丁度七年の間に、正に七%丈は肺病患者が減じて來た。

歐羅巴では御存知の通り、職工疾病保險法と云ふものがありますので、其處で勞働者などは、救濟治療する機關になつて居りますものですから、其處へ見て貰らひに來る處の勞働者の病人の中で、肺結核患者が、漸次其數を減じて參りました。七年の內に、正に七%を減少せる割合に當つたと記載してあります。尙附加へて記載してある事には、世界都市のつまり伯林を除いた外の都市の勞働者死亡の統計を見まするのに、伯林ほど良き成績を得たる處はないと云ふ樣である。是は何に因つて斯の如く吾人の統計表が(吾人と稱するのは卽ち伯林市の事である)他の都市の統計表に比べて好成績であるかと申しまするのに、是は確にプロイセン國勞働保險法の設備と肺結核療養所の勃興、肺結核患者取締法等の、他の都市に比較して、非常に完備して居ると云ふ事に起因するものである。是は大に趣味を持ち、又誇る處であると云ふ事を記載してあります。要するに結核の豫防撲滅と云ふ事は、今日の如く姑息なる方法に依つて經過致しましては、何年經つても、是を撲滅すると云ふ事及び豫防すると云ふ事は、困難な事であらうと思ひます。何が一番宜しいかと申しまするのに、前にも申しましたる通りに、何うかして出來得る限りは、結核收容所を處々に設立致しまして結核患者を可成他の人々より隔離すると云ふ事が、最も必要な事であらうと思ひます。是は決して私の案に非ずして、歐羅巴諸國の大家が、種々に研究して、此の方法より外に、豫防撲滅すべき方法がないと考へた事に因つて起りたる議論であります。で、我日本國に於きましては、今日の處、百事整頓しまして、萬事都合宜く參りまする國柄になつて居りまするけれども、殘念ながら、まだ結核收容所の設立などの話も持上らぬ樣な次第でありまして、何れの

病院を見ましても、肺結核患者も他の患者も雜居の體裁でありまするし、然らざるも、必ず隣室には結核患者が居らぬと云ふ樣な病院は、一つもないと云ふ樣な始末になつて居りまするのでありますから—私の病院は結核患者は隔離室に入れます—隨分豫防撲滅には困難なる次第でありまするのみならず、結核の蔓延と云ふ事は、かう無遠慮に、勝手次第に出來得る次第であらうと思ふのであります。斯の如く此儘に經過したならば、遂には我忠良なる同胞國民を悉く結核の爲に斃され結核を撲滅するに非ず、結核より撲滅される時がないとも限らないと思ふのであります。是等の事は是非共有力なる貴夫人方が御發起になりまして、大小に拘はらず、一の模範となるべき處の肺結核收容所を御設立になる事を御企てになつて、而して貧民の結核に惱む者を救濟したならば、其洪德無邊、何共申上樣がない事であらうと信じまするのであります。

聊か此事を提起致しまして、何うぞ大小に拘はらず速に肺結核收容所を御設立になりまして、我良妻賢母主義の日本國威を益々輝かさむ事を偏に貴婦人方に希望する次第であります。

叢談

創傷の手當て

X生

○『文明は片輪者の製造所』だと或人は云ふたそうだが、成る程四通八達の都大路に出て、絡繹と行き通ふ人を眺めてゐると、手の無い人、跛足をひく人、撞木杖の厄介になつて居る人、來るは〱限りも無い。これは文明の進歩に連れ工業製作の道が進み、怪我をする場合の增へた爲めでもあるであらうが、又醫學の進歩せるため、昔ならば當然鬼籍に入るべきものが、幸にも生命だけは助かると云ふわけでも

ある。

○單に些々たる怪我であつても、其治療の方法によつては益々増惡なつて來て、遂に生命を失くなす樣な事もある。故に創傷を受けた時には、何う云ふ風に處置したら良いかは、一家の婦人として必ず心得て置かねばならぬことである。

○創傷とは身體の表面を覆ふてゐる皮膚の切られた場合を云ふので、皮膚の下の肉も骨も、肉の中にある血管や神經も共に傷いて居ることがある。

○創傷にはいろ／＼の種類がある、切創、削ぎ創、刺創、銃創、挫創、裂け創等はその主要なるものである。

○創傷に伴ふ危險と云ふのは其大さと深さとによつて違ふが、取り分け創傷を受けた身體の部分に由り大に違ふ。神經や血管や、骨や關節や、胃腸や心臟や、肺や腦などの創傷は一般に頗る重いもので、其療法を誤れば必ず多少の障碍を殘し、或は生命を危うするものである。

○刺創や銃創はその創口の小さな割に、深く入り込んで居るものであるから、從て前に述べた重要な身體の部分を傷つける恐れが多く、又錐や釘などを刺した時には其尖端が折れて身體の中に殘り、銃創であれば彈丸が深く體内に入り、或は彈丸と共に衣服の斷片などの入り込むことがあるから、後でいろいろの害をなすことがある。針などを通した時に直ぐに之を拔き出さなければ、益々深く入り込み、遂には身體の内を環り／＼て、トンデモない所から出で、或は生活上必要な臟器に突き刺さることもある。

○車で轢かれたとか、回轉して居る機械に捲き込まれたとか云ふ樣な時には、其受ける創傷が頗る重くその部分の組織はすべて粉碎挫滅にされ、「ウーン」と云つた儘で即死することが少くない。幸に手足の尖端計りが碎かれた時には、その所から切斷して生命だけを助ける事が出來る。

○創傷がなほるには二種ある、創口が能く合つて膿

まずになほる時と、創傷がうんで漸々になほる時とである。膿まずになほる時には日数もかゝらず、後に殘る瘢痕も小さくて醜くないが、一旦膿んだ創傷は大きな瘢痕を殘して甚だ醜く、顔や頭や手足などの樣な外面に表はれて居る所では美容上にも影響する。故に成る可く膿ませぬ樣にするのが、現今に於ける創傷の療法の原則であり、又其理想である。

○抑も膿むと云ふ事は何うして起るものかと云ふに釀膿菌と云ふ黴菌が創口から創腔に侵入して、膿をこしらへるによるもので、膿が出來れば疼痛が增し熱が出で、紅く腫れ上る樣になる。斯樣な黴菌は刃物や器具に附著いてゐて創傷の中に入り、或は空氣中から侵入するものである。故に創傷を膿ませぬ樣にするには、第一に創傷と其周圍とを嚴重に消毒して黴菌を殺し、第二に緊く繃帶して黴菌の進入を遮り止める。

○創傷と其周圍とを消毒するには、先づ治療する者の手から消毒しなければならぬ、黴菌の附著いて居る手で創口に接觸はれば、到底完全な消毒は出來ぬ。手を消毒するには先づ深か爪をとり、次に石鹼で能く洗ひ、最後に一千倍の昇汞水で充分に洗ふ。

○創傷の處分に使ふ器械は、素人療治としては剪刀とピンセットとあればよい、之を二十倍の石炭酸の中に入れて消毒し、或は百倍の曹達水に入れ煮沸て消毒する。

○創口をつゝむガーゼーや繃帶は蒸氣消毒を施す、蒸氣消毒と云へば六ケしい樣であるが、お芋や赤飯を蒸す樣に、二十分間も蒸かせば充分である。

○創口の周圍の毛は剃刀でそり、次に同じく石鹼で洗ひ、創傷の中に入り込んで居る砂土や塵埃は能く淸水で洗ひ去り、次に一千倍の昇汞水で創口を消毒し、最後に消毒したピンセットで「ヨードホルムガーゼー」をはさんで創口に當て、其上から同じく消毒したガーゼーを當て、消毒した綿でつゝんで繃帶をする。

○創口から多少づゝ血の滲み出る樣な時には、成る

べく緊く繃帶をする。カナリ多く出血する時には、取り敢へず創傷のある所より中樞の方を有り合はす帶や紐などで縛る。例之ば指の尖端を傷けて出血する樣な時には、取り敢へず指の根本を縛る。

○然し「生兵法大怪我の基」と云ふから、手に餘る創傷は成る可く醫者の手に委かせて其治療を乞ふが良い。創傷をなほすには清潔消毒と云ふ事が第一であるから、創口へ袂糞をつけたり、泥土を塗布つたりすることは宜しくない。若し是等の不潔物と共に黴菌が創傷の中に入り込む事があれば、種々の恐ろしい病氣を來すことがある。

小兒に於ける耳の攝生

醫學士　内海　靜一

私は今回兎角一般から等閑にされ易い小兒の耳の攝生に就きまして、最も必要なことを二三御話し致しませうと思ひます。凡そ人間の五官の内で聽官ほど尊とい又大切な器官は、外にありますまいと思ひます。此の聽官は直接に外氣と交通して居る一個の管でありまして、色々な聽き得たる事柄は、此の管を經て精神の宿つて居る、腦髓へ傳へらるるのであります。恁う云ふ特別な裝置から、出來て居る器官あればこそ始めて人間の精神に最も高尙なる又最も純潔なる快樂を、調達へて吳れるのであります。之に反して、假りに此の器官が缺けて居たならば、人間の知慧の發達は遲々たるものであります。其處で小兒が耳聾であるか、或はひどく聽力が犯されて居りますると、精神の發達進步が全く出來ない爲めに所謂祗能兒として終らなければならぬ樣な、不幸なる運命に陷るのであります。生れてから四歲の內に聾になりますと、大抵永久に聾啞と申しまして、耳も聞こえず口も利けない人間になるのでありますが聾啞も四歲乃至七歲頃に犯されたならば、小兒の養育者にして特に氣を付けて吳れるとか、又は小兒の知慧が殊更に發達して居つて、加之に已に讀書など

も教へられた者に限りて、口を利く事の出來る者も偶然にはないではありませぬ。けれども其れは稀であります。

次に聽力が非常く犯されまするど、人生の娛樂の上に大に影響を致します。例へば社交上必要なる集會とか、音樂の奏演とか、或は演劇などに趣味を持たなくなります。花の晨、月の夕、只に之れを眺めた許りでは、眞の美を賞し、眞の情を解することは出來ないのであります。其外衣食住にも困難を感じまして、到底一大偉業を奏するなどの沙汰ではありませぬ。是れを云ふのも、畢竟大切なる職業には聰力の健全なるものを要する爲であります。斯く諄々しく列べて見ますれば、如何に完全なる聽力が必用であるかと云ふことは、已に御分りになつた事と思ひますが、尙ほ耳の病氣も種類によりては、生命に關係する場合が夥しいのであります、其れで小兒の耳の病氣に就て申し述べますれば、耳の大切なことが一層明晰と分るであらうと思ひます。

是れから耳の疾病の內で、小兒の罹り易いものを簡單に述べようと思ひます。中にも中耳炎は最も恐るべき病でありますが。其の概要を申し上げます。

中耳炎は急性と慢性との二樣に區別致します。此の急性のものは、小兒には隨分多ふ御座います。何故多いかと申しますれば、此の病氣の原因は、小兒の最も犯され易い、急性傳染病、即ち流行性感冒、痲疹、猩紅熱、窒扶的里、肺炎、百日咳、窒扶斯等の合併症として、起る場合が少なくないからであります。其外寒冒も主要なる原因でありまして、咽頭、鼻腔等の疾患等から起ることも多いのであります。さて此の病氣の容態は怎うかと申しますれば、第一耳の奧が痛みます。其の痛み方は或は刺すが如く、或は剔るが如く、多くは間歇性に時をおいて起ります。又聽力は著しく減退しまして頭痛も致しますし、發熱は小兒では殊更劇甚しくありまして四十度以上にも達することは稀でありませぬ。其外腦膜炎の樣に、嘔吐とか又手足の痙攣ることがあります。

此の病氣は、輕度のときには、數日間で快方に向ひますけれど、惡性のものでは、病は荏苒として長引きまして、慢性となるか、又時としては腦膜炎を續發致しまして、可惜花の蕾ともなり終へぬ内に凋落れて仕舞ふ樣な、悲歎に遭遇することが御座います。又急性症の内に、穿孔性と申しまして、鼓膜に孔が開いて、内方から膿汁が排出るのでありまして、此れは前のに比ぶれば、一層症候の劇しいものでありまして病の原因は大差はありませぬ。そして前のは穿孔しないから單純性と申します。

慢性の化膿性中耳炎は、急性化膿性中耳炎から變ずることが多くありまして、其外に急性傳染病に基因するものが隨分あります。此病氣は屢々見るのでありますが、之れは幾年間も犯されて居乍ら、小兒自身には自覺ない爲めに、醫術の進歩して居る今日でも時々犯されますするのは、誠に殘念であります。症候としては、聽力の不完全と云ふことは主なるものでありますが、時として聽力の減退らないものがあります。又耳内の疼痛は普通缺如けて居りまする。是等の點からして、小供自身は氣付かず又養育者も兎角看過し易いのであります。其内に病氣は重つて參りまして、遂には色々な症狀が現はれてくるのであります。一體小兒期には、取り分け耳の病に罹り易いのでありますから、其父母たるものや、其養育者たるものは、平素から注意怠りなく、耳の健全なるか否かを觀察して居られる樣に御勸め致すのであります。

人間が呱呱の聲と共に此世の人となりますれば、色色と初めての刺戟物に遭遇致します。此物には後には平氣に慣れなければならず、又利用もしなければならぬのであります。即ち空氣なり光線なり又は音響などが、一時に襲來まして、不慣れなる初生兒の器官を刺戟するのであります。是等の感覺は、かなり手強くありまするけれども、其間には空氣は皮膚に慣れ、光線は眼に慣れると同時に、音響は耳に慣れて參ります。其外身體の外表に空氣が働きまする

爲めに、肺臓の感覺を刺戟しまして、呼吸と云ふ大切な作用が行はれまするし、眼は光線を知覺しますし、又耳は音響を知覺しまして、夫々自身持前の職業を營むのであります。扨て塵埃の多い空氣、又寒たい空氣は、皮膚や肺臓を苦しめ、眩燿しい光線は眼を弱らすと同様に、甲高な音響は耳に宜しくありませぬ。其れ故初生兒に喧しい喧噪を聞かせることは、成る可く避ける様に用心せねば不可ません。然し乍ら適度の高音位は差支へはありませぬ。茲において外氣の影響を和らげる爲めに、頭と耳とを何かで蔽ひますることは、至極適當な處置でありまして目的を過つては居ませぬが、皮膚と密著する頭巾などは、決して使用してはなりませぬ。其れは何故かと申しますれば、耳翼を壓しつけまして、聽力を妨げると云ふ恐れがあるからであります。でありますから、寛りした頭巾を被ることが西洋では行はれて居るさうです。

少々醫術の事に渉りますが、初生兒には耳翼を傷ける様な小手術でも、成るべく行ひません。一般に、織弱き小兒に外科的手術を行ひますと、往々小兒の神經症狀を惹起しまして、恐るべき不慮の災に陥る事があります。況んや微妙なる耳の手術などは矢庭に急ぐ必要もなければ暫く見合せておいて、後日成長の後に行ふのが宜いのであります。

怎うして耳の病氣が起り易いかと申しますると、第一耳咽腔の構造を考へると、最も善く分かるのであります。多くの場合に殊に小兒では、此の所は耳病の媒妁となるのであります。鼻咽腔は吾々の呼吸器と同時に、又消化器の最上部に位して居まして、此の所と耳とは、歐氏管と云ふ、内面は粘膜で出來て居る所の一個の細長い管で直接連結して居りまするから、鼻喉腔に何か病竈でもありまするると、病原菌は容易に耳に移行するのであります。其れでありますから、鼻と咽喉の慢性の病氣は、聽管に對して最も有害なる影響を及ぼすのであります。特に初生兒中耳炎と申しまして、初生兒には、中耳炎が好ん

で起り易いのであります。之れは歐氏管が大人のよりも比較的廣大でありまする爲めに、出産時産道にある多くの細菌を含んで居る液が、初生兒の鼻咽腔に這入りまして、第一回呼吸の際に歐氏管を經て鼓室に進入しまするから、耳が病氣に罹るのであります。

(以下次號)

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

(二六)活ける家の建築材料(上)

活ける家を壯健にし、活潑にし、美麗にし、完全にし、斯くて家の主人をして幸福安寧ならしめんとするには、良き建築材料を撰んで適度に之を供給し、絶へず過不及なきやうに注意せねばなりません。建築材料とは家を建つるに必要な材料で、此材料の善惡により、建てた家にも自ら高下の別を生ずるものであります。我が活ける家に於ても

善惡二種の建築材料

がありますから、我々は必ず善良なる建築材料を撰んで、身體を強壯に打ち建てねばなりません。生活と云ふ作用は絶へず身體の組織を消費して、活ける家を打ちくづしつゝあるものでありますれば、又絶へず良き材料を供給して之を補綴修繕するのが我々の義務であります。

(甲)善良なる建築材料

善良なる建築材料には二種あります、一は窒素成分の食物、他は炭素成分の食物であります。

(一)窒素成分の食物

とは、身體の構造に必要な窒素と云ふ元素を含んでゐる食物で、此窒素は空氣中にも土壤の中にも存在して居ります。自然は先づ此窒素成分を植物の中に置き、人が植物を料理して食へば、人體の細胞が之を取つて筋肉となし、人體を發育生長せしむる樣に仕組んで居ります。取り分け窒素成分は活ける家の破損部を修繕する役目をなすもので、疲れ果てた神

經細胞、筋肉細胞、骨細胞、内臓器を組成せる細胞などは、すべて含窒素食物より養はるゝものであります。而して五穀、馬鈴薯、豆類、胡桃、肉類等の中にも凡て窒素成分の含まれて居るものであります。

乳汁

も同じく含窒素性の食物で、完全なる食物として必ず備ふべき成分は悉く之を含有して居ります。一年未満の小兒は之によつて全身を發育させ、生れたての動物は獨り自ら食を求むるに至るまで之れ計りで生長して居ります。乳汁のうちには蛋白や、乳糖や脂肪や、或る鑛物質をも含有し、小兒並に大人の身體に向つて申し分なき良き建築材料であります。

卵

も身體構造に向つて重要なる材料で、鳥類は其孵化するに至るまで卵の中に生活して居ります。殊に新鮮な卵は榮養分に富み、病人などの食餌としては此上もない程であります。卵の卵白は純然たる蛋白質で、その卵黄と稱する部分は脂肪や硫黄や窒素などを含んで居ります。

肉類

に就ては頗る滋養分があると云ふ者と、之に反對する者とがあります。動物は人類と等しく地から生ずる食物により生活するものであれば、其肉の中には窒素その他の重要な成分を含有して居るのは云ふ迄もありませぬが、凡て生活體内の新陳代謝によりて生ずる毒素や癈棄物なども亦た之れに混つて居ります。たとへ燒いて食べ、煮て味ふからと云つても、是等の毒素や癈棄物を交へて居るかと思へば、聊か心地よくない次第であります。魚肉、鳥肉、獸肉の區別はなく、何れの肉類も皆身體の發育を害する此毒素や癈棄物を含んで居ります。加之肉の中には屢屢病原體を含んで居つて、肺や、胃や、肝臓や、腎臓などに病氣を醸し、又屢ゝ「リョーマチス」を惹き起すやうな事もあります。

肉食の害

は茲に至つて明瞭であります。世界開闢のことの記述してある創世紀と云ふ書物には、「神云ひ給ひけるは視よ我れ全地の面にある實蔬のなる諸ての草蔬と核ある木の菓の結る諸ての樹とを汝等に與ふ、これは汝等の糧となるべし」とあります。是に由て觀れば、アダムとエバと云ふ世界最初の男女二人の食物は、野菜や菓實計りであつて、他の動物の肉を割いで自分の食に供すると云ふ亂暴は、漸次人類の墮落に伴つて來た現象の樣であります。

植物はあらゆる食物の供給者

で、凡そ活きとし活ける者が、一として植物から其生活材料を仰がぬものはありませぬ。實に奇しき生命と云ふものが、植物の中に溢れて居ります。此生命のために種子は芽を吐いて育ち、育ちて熟し、熟して人類及び動物の食物となるものであります。動物の肉類と異り、純の純なる生活材料で、健康上頗る重要な食物であります。

植物體から重量一「ポンド」の食物の出來るには、二百乃至三百「ポンド」の水が要る、此水は植物の小さな根で土壌の中から吸ひ上げられ、枝から葉へ分配され、更に日光と空氣とにより植物體の榮養となるものであります。故に我々が米、麥、野菜などの樣な植物性の食物を食べるのは、日光や、酸素や、窒素や、潔き地中の蒸溜水などを體内へ取り込むこと同樣であります。日光や酸素や窒素は人體構成に缺くべからざる要素でありますが、是等のものを取り揃へて食物を造ることは何人も出來ぬ所で、獨り植物體内には我々の窺ひ知る事の出來ぬ一種の秘力があつて能く之を食物とするのであります。要するに植物は清潔で、毒素を含んで居ないのが、聖人君子の食物として最も適當して居るものであります。西洋の或人は肉食を批評して

『肉食は古物を食ふのだ』

"Meat is a secondhand food"

と云ひましたが、成程我々の食ふ肉の中に含んでゐる脂肪も、蛋白も、あらゆる成分も、悉く動物固有

のものでは無く、皆動物の食べた植物から源たもので、云はゞ動物體を通過した植物固有の成分であるのであります。古著は不潔である、古道具は長く耐久たぬ、古本には黴菌が附着いて居る、如何で古物たる肉食が新鮮な活力を滋してゐる草食に及びませう。

(二)炭素成分の食物

とは、身體維持に必要な體温を供給する所の食物で普通の石炭や薪炭の燃へるのが炭素のためである如く、食物が體内で燃燒へて熱をつくるのも亦た炭素のためであります。炭素成分の食物は多く植物性のもので、此中には澱粉、糖分若くは脂肪などを含んで居ります。

澱粉

は芋や、甘蔗や、馬鈴薯や、米や、玉蜀黍や、麥類や、胡桃や、其他の植物性食物の中に含まれてゐて體内に入れば盛んに體温をつくり出すものであります。

糖分

も上記の食物の中に含まれて居り、又澱粉からも出來、蜜汁、乳汁などの中にも存在して居ります。菓實の液汁は最も良き糖分をふくみ、體内で燃燒すれば少からぬ筋力をつくるものであります。故に菓實は筋力を強めるものでありますが、澱粉質や脂肪に比すれば熱を生じ、力を造り出すことが遙に少く、從て暑熱の候若しくは熱のある病氣の時に味へば、氣力を鼓舞するところの清新劑となるものであります。

脂肪

はあらゆる胡桃の類、米穀、菓物、牛乳、乾酪、卵肉類等の中に含まれて居り、體内で燃燒すれば他のあらゆる食物よりは遙に多量の熱や力を發生するものであります。故に米穀、牛乳、乾酪、卵類は頗る良い食料で、身體運動の勢力は實に是等のうちに含まれて居る炭素の燃燒によるのであります。たとひ朔風膚へをさくと云ふ北地に住まひ、或は熱天灼地

と云ふ南地に居つても、朝と云はず夜と云はず、春となく秋となく、たへず

攝氏三十七度の體溫

を保たせると云ふは實に身體細胞の義務であります。冬の寒天には皮膚や肺から發散される身體の熱量は夥たゞしく、從つて暖かく衣服を纏ふて其發散を防がなければなりませぬが、又炭素成分の食物を多く食して盛んに熱を造り出さねばなりません。

冬は夏よりも食がすゝむ

と云ふのは全く此ためで、殊に脂肪及び澱粉の様な多量の熱を造り出す食物が、冬には適當して居ります。勿論脂肪や澱粉は窒素成分の食物の様に、殊に身體組織を形成するものでは無く、只身體の熱をつくり、活潑に運動させるものであります

水分

は身體の生理的經濟に缺くべからざるもので、水が無ければ身體細胞の働きは直ちに停止するものであります。故に聊かでも水分に不足を訴へることがあれば、直ちに『渇』と云ふ感じを起させるものであります。夏日勞働して發汗すれば、直ぐに咽喉の渇くと云ふのも之がためで、實は咽喉の渇くのではなく全身の細胞が水分の供給を渇望するのであります。此際此の渇望を滿たさなければ、強い日光に照り付けられた草木の様に、身體細胞も打ちしほれて、其作用が敏活を缺き、遂には全身の死滅を來すやうになります。之れを重量にかけて見ると、

身重の三分の二は水

であつて、皮膚は宛然水を盛つた袋の様なものであります、故に十五貫目の重量の人は、十貫目は水分で、正味の重量は僅に五貫目に過ぎぬのであります病氣その他の事狀のため少しも食事が進まぬか、或は嘔吐や下痢などがあれば、直ぐに眼瞼が凹んでメツキリと痩せるやうになるのも、主として體内の水分が失はれるからであります。故に身體内の組織は腦と云はず、肝臟と云はず、何れの部分も此水分で沐浴して、絶へず清潔になり、其不潔になつた水は

尿となつて體外に排泄されるのであります。渇をいやすに最良な飲料は、清き濁りなき水であつて、他のいろ／＼な飲料は身體組織の要求を滿たすに充分ではありません。

頭髮のたしなみ（續き）

K、H、生

白髮は如何して出來るか　若白髮など、申しておい間から白髮のある方は特別と致しまして、普通では如何に美しく澤々したお髮の方でも、大抵は四十歲若くは五十歲位の御年配になりますと、中にちいいいよいちよい白髮の混る樣になるのは生理上止むを得ぬ事であります。夫では白髮は如何して出來るものであるかと申しますと、是は此御年配位になりますと毛髮の中に含まれて居る色素の分量が少くなり、其上前にも一寸申上ました毛髮の皮質や髓の間に極微細な空氣の泡粒が入りこんで、夫が光と反射して毛髮が白く銀色に光る樣になるのであります、平たく申せば白髮と云ふ物はまあ風を引込だ毛髮と申上て差閊へ無からうかと考へます。空氣の泡沫が入込んで何故毛が白く見えるかと申す事は牛乳を御覽になつても分ります。牛乳と申せば白い物と決まつて居ますが、是は牛乳の中の脂肪其物が白い色を致して居る譯ではありませぬ。元來牛乳と申す物は、顯微鏡で見なければ分らぬ位に極々細かい脂肪の粒が水に浮て居るので、其脂肪粒が光線を反射して、夫で白く見えるのであります。ですから脂肪の粒と空氣の粒との相違こそありますが、白髮の白く見えるのは牛乳の白く見えるのと全く同樣な理であります。又注意して見ますと、一條の毛髮でも、白い所と黑い所とだんだらになつてる事がありますが、是は空氣の泡粒が處々でかたまつて、其處だけが白く見えるのであります。

白髮の出來る原因は、其方の身體の養ひ、精神の持ち樣に密接なる關係のある事は勿論でありますが、

其外遺傳的關係のある事も一般に認識せられて居るのであります。中にも若白髮などは、如何も家族的の關係が多い樣に見受られます。重い病氣に罹つた後であるとか、年齡を取るに從つて白髮の殖えるのは、確かに榮養との關係から起るものと考へられますが、其他精神との關係も亦著しいもので、甚だ心配をした後で白髮の殖えると云事は、何方でも充分御承知の事でありますが、猶非常に驚いたとか、或は始終目先に幽靈がちらついて見えると云樣な精神病患者などで、頭髮が突然眞白に變つて仕舞つたと申す樣な例もあります。其外神經痛や、ヒステリーの後で其患部だけに急に白髮が生えると云樣な事も餘り珍らしくはありません。西洋の或學者の研究によりますと、麒麟の皮の斑紋になつてる所では、茶色の毛の生えてる所に擴がつてる神經と、白い毛の所に擴がつてる神經とは、全く異つた種類のものだ相であります。夫から犬で實驗致しましたのでは犬の或神經を切りますと、さきで其神經が擴がつて居る部分の毛が追々白髮になつて、果ては全く脫落ちて仕舞つたと云樣な例もあります。兎に角神經の分布と白髮との間には密接な關係があるには相違ない樣に思はれますが、其邊の研究はいまだ十分に行屆いては居りませぬ。ですから白髮の豫防法としては、第一に精神を過度に使ふ樣な事を成るたけ避け飮食其他の攝生を守つて、身體の榮養をよくする外はありませぬ。其外石鹼の中でも、取分けあるかりの多い石鹼を餘り澤山に使ひ過ぎたり、或は餘り毛髮の油氣を拔き過ると、如何しても早く白髮に成易い傾向がありますから、是等の點に於ても御注意が大切であります。

白髮を染める注意

白髮を染める事は我國でも古くから行はれて居ますが、特に近來は、西洋から色色の新らしい材料が輸入せられますので、其染め方も、一々數へ立てる事のできぬ位澤山になりました。併し茲に一寸御斷りを致して置かねばならぬのは、嘗て髮洗粉の所でも御注意申上た通りに、西洋

から輸入した髪染剤と申すのは、其藥剤の色が如何に黒くできてるからと申しても、元來毛色の替つた西洋の方にこそ適當かも知れませぬが、夫を其儘我御婦人のお髪にお用ひになると云事は甚だ危險な事であると考へます。西洋で多く用ひられる黄丁幾や、へんなー末、過酸化水素などを配剤してあるのは、金髪や、淺褐色の毛いろの西洋の婦人には良いかも知れませぬが、之を我國の御婦人がお使になつては、單に毛の色が美しくならぬ許でなく、仕舞には其毛の質迄惡くして仕舞ふ様な事になります。夫では白髪染めでは如何云ふのが最も良いか、且如何して染めたら良い乎と云様な事を、ざつと次に申上度と存じます。

白髪を染めるのには色々の方法がありますが、其藥剤は毛髪の染まりが良いと同時に毛髪の害にならぬ物でなくてはなりませぬ。何程染まりが良いからと申しても、毛の質を損める様なものは、決して使つてはなりませぬ。一般に植物性の染藥の方が、鑛物性のものよりは毛髪の爲には宜しい様でありますが鑛物性の物の中にも、隨分亦用ひても差間へのないものもあります。其中で只鉛分の入つた染藥だけは染まりは一番よろしいが、其代り是は鉛の入つたおしろい同様に、身體の害になる許でなく、毛髪も甚しく損められますから、是だけは成るべくお使にならぬのがよろしい。平生一般に廣く行はれて居る髪染剤の重なものは、次の様なものであります。

あにりんで染める法。是は黒色のあにりん色素と、らかんと護謨とを混じたもので、染上げ當時には左程でもありませぬが染めて暫時經ちますと漆の様に黒々となる上に、一種の光澤をさへ帶て萬遍なく誠に美しく染まるものであります、夫れ許でなく此染方は他の染方の様に毛髪が硬くなつたり又脆くなつたりする様な心配もないので、數多い白髪染の中で最も安全な方法であります。其染方は毛髪を前以てふのりか又は曹達水と微溫湯とでよく洗つて不潔物

や油氣を落し、軟かなたゝおーるか何かで毛を揉み作ら毛筋を持て丁寧にすくのです。凭して毛髮の十分乾き上た所で初めて染藥を塗るのであります、藥の方は小さな皿に入れて豫め火に懸けて溫めをき、夫を此のために特別に作られてある小さなぶらしか、或は普通の歯磨用の楊子の樣なもので毛筋を分けながら毛の根から尖へかけて萬遍なく塗るのであります。此塗藥が塗られてから十分毛に落着く迄には如何しても五六時間は懸りますから、藥を塗つたら暫時其儘にして空氣に乾かし十分染み込んだ所で水か微溫湯で洗去ればよろしいのです。亦其時に餘り濃く染まりすぎたとか、或は頭の生地に斑になつて染まつた樣な時には石鹼又は水油、わせりんなどを附て拭取り、夫でも猶十分でない時には一ぐらむの次亞硫酸那篤僧謨を二十五ぐらむの水に溶かした液で洗へばよろしいのです、併しあにりん色素は大抵容易く頭の皮膚から吸收せられる性質がありますからたとひ頭の地に染みた藥でも其儘にして放擲つてをきますと二三日も經てば獨りでに吸收せられて仕舞ひますが、中には身體によくない色素もありますから地に附いた染藥は矢張そは時に丁寧に洗落した方がよろしいのです。

硝酸銀で染める法。白髮染の中で一番廣く行はれて居るのは此硝酸銀で染める方法であります、是は染方が誠に手輕で時間も餘り澤山に懸らぬと云點に於ては誠に重寶ではありますが、硝酸銀は元來劇藥の一種でありますから其働きも隨分強いもので、是を餘り度々使ふか或は餘り澤山にお使になる事は毛髮や頭の皮膚に取つては餘り宜ろしい事ではありませぬ。只所々にかたまつて生えて居る少許の白髮を染めると云樣な折には差閊へはありませんが御婦人のお頭の樣な澤山の毛を一時に是で染めると云樣な事は考へ物であります。取分何の場合にでも硝酸銀の入つて居る藥は決して頭の地に附著かぬ樣に御注意か大切であります。硝酸銀の液で染めるに致しましても其方法には幾通りもあつて夫々皆少許違つて居

るのであります。其うちの第一法は先づ五十倍の沒食子酸水と十五倍の硝酸銀液にあんもにあの一割を加へたものとを用意して置き、平生の通りに髪洗をして油氣を去り十分乾切るのを待て先づ沒食子酸水を小さい刷毛で毛に萬遍なく一樣に塗り附け、一度乾かしては亦塗り大抵二三度許りも繰返して藥の十分乾くのを待つてそこで初めて硝酸銀液を塗り附け暫時空氣に曝らして置て毛髪の眞黑になつて十分染まつたと思ふ頃に水で丁寧に洗ひ滌ぐのであります。其他の方法も大體は全く之と同じでありますが分量を少許違えたのでは、矢張丁寧に髪洗をして十分乾切るのを待ち、沒食子酸一・〇、蒸餾水五〇・〇の割合に混せた液を齒磨楊子で毛根から末端まで塗附け、其乾くのを待つて再び硝酸銀二・〇、蒸餾水一六・〇、夫れにあんもにあの二三滴を加へたものを塗るのであります。亦其折に染藥が頭の地に附著くか或は毛が斑に染まつた樣な場合には沃度加里一〇・〇、蒸餾水二〇〇・〇の割合で溶かした液で拭けば容易く取去る事ができます。

今一つの方法は前の法よりは少しく面倒ではありますが染まり方は却て此方がよろしい樣であります。是には先づ次の三通の藥液を用意しておくのです。

A、焦性沒食子酸五・〇ぐらむを九十％の酒精二五・〇の中に溶かしたもの、

B、二・五の硝酸銀、七・五の硇砂精を二〇・〇の蒸餾水に溶かしたもの、

C、〇・五の次亞硫酸曹達を二〇・〇の蒸餾水に溶かしたもの、

此液で染めるには先第一にA液を塗り、次に五分間許經つてからB液を塗り、夫から又凡そ十分許經つてからC液を小さな海綿に浸したもので丁寧に潤すのであります、約三時間も經つて毛髪が十分乾ひた所で更に微溫湯と石鹼とで洗ひ清め、頭の地に附著た染藥は石鹼かC液かで洗へば取れます。又其代りに上に記載致しました沃度液で洗つてもよろしい、

兎に角恁云風にして藥が少しも其地に殘らぬ樣に洗落す事が最も大切であります。

おはぐろで染める法。是に我國でも古くから行はれて居る法で、歯に鐵を附けて黑くすると同じな方法から思附たものであります。此染藥は檳榔子、いゝふし五倍子などの樣な鞣酸質、俗に申すしぶの澤山含まれて居る植物の實や皮を鐵の鍋に入れ火にかけて煎附け極小さく砕き、次に其中に銅粉、鐵粉、明礬などを混じて拵へたものであります。染上げた所では其色合は左程にはありませぬが夫れでも隨分美しい黑褐色となり、又毛は少し硬くなる缺點はありますが之は油を塗りさへすれば差閊へはありませぬ。其染め方は前同樣に先づ髮洗をして油氣を落して置き次に藥の方は染粉を適當なだけ鐵の鍋に入れ之に茶の煎じた汁を加へて火にかけてよく掻き囘し、次に火から卸して冷えるのを待て毛に塗るのであります。此方法では十分染上るには如何しても十時間以上懸りますから藥を塗つて仕舞つたら翌朝まで頭髮をふらねるの片で包み置き、翌朝になつてから微温湯か布海苔で手軟かに一度洗滌める方が毛髮の澤が一層よくなるのであります。

鉛で染める法。鉛で染める法は一番時間が懸らぬので市中の理髮店や何かで行つて居るのは大抵此法である樣に見受けられます。併し此法は毛を害する事の甚しいもので頭毛を大切にせられる御婦人には勿論御勸めする事はできませぬ。鉛製の白髮染と申すのは酸化鉛二〇・〇、煆性石灰五〇・〇、煆性まぐねしや五〇・〇の分量で擦り混ぜ之に水を加へて捏ね上げたものであります。而して是を毛髮に塗つて毛の黑くなる理由は、此混合物の中の石灰が水を加へられた爲に激しい作用を起して毛の組織を破壞し同時に毛の中に含まれて居る硫黄分を分離せしめ、其追出された硫黄が鉛に附著て初めて黑い色を呈するのであります。ですから染め樣が少し長引いて藥の利きが少しでも強過ぎますと毛髮がぼろぼろ切れて仕舞ふ樣な事があります。ですから之で染めるのに

は十分注意を致して長くても三四十分位で洗落さなければなりませぬ。且染上つた所でも其色が少し黝がかつて光澤も鈍う御座いますから餘り好んで用る方法ではありませぬ、只甚だしい癖毛や縮毛では鉛製の白髮染を用ひますと上に申した樣な次第で毛の組織の替るのと共に幾程か引延される有樣となり暫時の間縮れの直る樣な事があります。亦同じく鉛の入つた白髮染のうちでも硫肝と云ふ藥劑を水に溶かして毛髮に塗附け、夫に醋酸鉛の水に溶かしたのを塗る法もあります。是は毛を損める事は前の法程にはありませぬが、其代り染上つた色も餘り良くはありませぬ。兎に角鉛の入つた白髮染は鉛を含んだおしろいと同じ樣に餘り用ゆべきものではないと云事を御注意あればよろしいのです。

炭素質で染める法。近頃は亦油煤其他の炭素質を蓖麻子油又はわせりんの樣なものに煉合はしてちつくに拵へたものがあります。是は毛髮や毛髮の根を損ふ樣な心配はありませぬが、如何しても萬遍なく綺麗に染めると云事が難かしく、其上衣服の襟や繻袢なぞを汚くする恐れがあるだけが缺點であります。特にお暑い時分などには餘り適當致さないかと存じます。

以上で世の中に普通行はれて居る白髮染の方法はざつとお話申上た積であります。猶此外に今一つ申上れば蒼鉛の液を用ひる法もありますが、是は染つた所幾分か褐色じみて見えるので餘り美しいとは申されませぬ。

扨恁云風に色々の方法で染上られた毛髮は、其當分こそ誠に澤やかに美しくはありますが其色澤も何時迄も其儘で居ると申す譯には參りませぬ。頭の汗の内に含まれて居る酸類や、髮洗にお使になる石鹼の内の酸のために其黑い色も次第〳〵に剝がされて、數日の中には黑く染まつてる毛の中から白い毛が又ちよいちよい目に附く樣になります。俗には白髮は枯死して仕舞つた毛であると云樣に申しますが、白髮は前にも申上た通り毛の中に只空氣が入込でると

云迄であるのですから白髮は白髮なりに矢張外の毛同樣にずん〳〵延て行くものでありますから、毛を染めてから十日もたちますと毛の根の新らしく延た部分が白く目立つ樣になります、ですから其間にも折々間染をなし一ヶ月目位には頭髮の全部を染め直す必要があります。

恁ふお話致して見ますと、一寸白髮を染めるのにも誠に面倒な手數が懸かる樣ではありますが頭髮に白髮の交つてる位其方のお齡を更けさせて見せるものはありませぬ。羅馬で名高い詩人のおういつさは牡鹿の髓を煮出した汁で染め、絕世の美人として有名な女皇くれをぱとらも熊の肪脂で髮を染めたと云樣な傳說もあつて、何れの代、何れの國でも此髮を染めると申す事は御婦人の最も苦心をせらるゝ大切な身だしなみであつたに相違ありませぬ。

（完結）

醫者の見たる水（承前）

東京醫科大學　神尾驥子

我々の用ゆる水は、飲用にするは勿論の事、使用する水でも、此等有害な生物、生物の卵子、或は腐敗物、或は食鹽其他の化合物等を含有してはなりません。出來る事ならば一個の黴菌も居てはなりません併し以上申しました通り、十分に注意しましたならば、寄生蟲の卵子や、腐敗物のない水を得る事は出來ませうが、黴菌は我々の手端にも、器物の表面にも、將た空氣中にも澤山居るものでありますから、黴菌が一つも居らぬ樣な水は、到底出來ないのであります、蒸餾水は全く生物を有して居りませんから堅く密閉しておきますれば、長く黴菌をもちませんが、一日其の栓を開いておきましたなら、直ぐ數十の黴菌が其中に發生いたします。又水は蒸餾しなくとも一度煮沸しますれば、其中に居る黴菌も、生物の卵子も皆死んでしまいますから、無害となります

之れ卽ち生ま水を飮むなといふわけで、常に煮た水を飮んで居りますれば、前に述べました樣な病氣にかゝる恐れはないのであります、併し食器茶器より傳染する恐れがありますから、此等を洗ふ水も煮沸したものを用ゐなければなりません、斯樣な事は最も衞生的でありますが、疊の上に兵法でありまして實行出來るものではありません。然らば我々は如何なる水を用ゐてよいものでせうか。

我々の用水として適當な水は次の色々の性質を備へて居るものでなくてはなりません。

一、水は無色であつて、よく澄んで居る事、色のある事は申す迄もなく何か物質が溶解して居る事を表はして居るものでありますから、飮用には勿論、使用水としても不適當な事はいふ迄もありません。又澄んで居らないで、濁つて居るといふのは、極く細かな塵芥が澤山はいつて居る事でありますから、其中には小生物も居りませうし、寄生蟲の卵も、傳染病の黴菌もはいつて居りませう、でありますから左樣な水は危險な水であります。

二、肉眼にて見えざる不潔物も含有せざる事。溷濁つて居るのは何とか肉眼にて見える不潔物でありますが、腐敗物の微細なもの、眼に見えぬ物體、無色の液體、其他鐵、鹽類等は、肉眼でも又顯微鏡でも見られぬものがあります。

三、水は無臭であつて、味の佳なる事、臭のある事は疑もなく其の水の不潔な事を示して居ります、味も水が純粹でないといふ事を示して居るものでありますが、然し或る度迄は必要なのであります、蒸餾水の如き殆ど純粹な水は無味無臭でありますが、其の全く無味である爲めに食用には不適當であります。淸水、或は井戸の水は味の點に於ては最も優れて居ります、此れは炭酸瓦斯を適度に含んで居るからであります。之に反して河の水は味があまり宜しくありません。

五、水は一定の石灰分をもつて居りますが、多すぎてはなりません、言ひ換ふれば硬すぎてはなりませ

ん。

六、病原となる生物は勿論其他の黴菌を含有して居らざる事、假令顯微鏡下には無害の黴菌ばかりでありましても、多くある中には有害のものも居らないとは限られません、故になるべくは黴菌の一つも居らない水を用ゐるのが理想的があります。水中に最も普通に居る黴菌は腐敗菌でありまして、此の黴菌は空中にも至る所に浮遊して居りますが、我々人間には直接大害をするものではありません。唯食物其他のものに附著して之を腐敗せしむるものであります、人間の腸の中にも澤山居ります。然し此の黴菌は一種の有毒な物質をつくりますから、あまり多く腸の中に蕃殖いたしまする時は、其の毒性を有する物質も多くなりまして、腸より吸收せられ、遂に人間を害するに至ります。故に此の腐敗菌も含んで居てはならないのであります。

七、有毒なる物質例へば鉛、砒素、燐等を含んで居てはなりません、水道の水は主なる所は鐵管で引いてありますが、小さな所には鉛管で引いてあります故に時とすると鉛を溶解して居る事があります、之は注意せねばなりません。

八、最後に以上の諸性質を備へてある水が發見せられたとしますれば、其の分量は十分多くなくてはなりません、飲用にしても使用しても不足を來す樣な事があつてはなりません、飲用には十分であるが用水としては不十分であるから、其れは他の水でするといふ樣な事は、我々の要求を充したものではありません。

以上の諸條件を滿足さする樣な水は如何にして得る事が出來ませうか、水は至る所に流れて居りますが、其等の水は此等の條項を滿足して居るものでありませうか、抑々我々の用ゐて居る水は次の五種に分つ事が出來ます。

一、天水、此れは雨水を蓄へたものでありまして、普通の所では用ゐて居りません、他より水が獲られない所で、家根へおちた水或は山の斜面へおちた水

を集めて用ゐて居るのであります、此の水は空中のアムモニア、硝酸を溶解して居ります上、空氣中の黴菌を澤山もつて居ります、殊に腐敗菌が澤山居りますから、腐敗し易いものであります、故に飲用には適して居りません。それでも、外の方法で水が獲られない時には已を得ぬ事でありまして、伊太利のベニスといふ町では之を砂ごしにして用ゐて居ります、其他土耳古の首府コンスタンチノープル及び琉球の沖繩でも此の水を用ゐて居るそうであります。此等の所では、雨の多い時は水は清く澄んで居りますが、晴天が長くつゞきますれば、水は腐敗しますので臭氣を放つそうであります。

二、地下水、井戸の水は卽ち此の地下水でありますが、其元を尋ねて見ますれば皆雨水であります。地上に降り注いだ水が地中にしみこんで下層に入り、粘土或は岩石の層に達し、其より下へは降る事が出來ないので、其の地層の上に積つたものであります。元來地中には非常に多數の黴菌が居ります、殊に腐敗菌は非常に多いものでありますが、此の黴菌は此所では却て水を清潔にする作用をもつて居ります。卽ち雨水の中に溶解して居る有機物を悉く分解して、無害なものと變じてしまいます、そして地層の深い所には酸素が十分にありませんから腐敗菌も生活して居る事が出來ません故、水が深い所に達しますれば有害な物質は悉く分解せられて跡をたち、黴菌も亦少しも殘つて居らぬ純潔な水となります　其れに始め地上に達しました時には種々の病源となる黴菌をもつて居りましても、それは長く地中を通過する間に多くは他の腐敗菌の爲めに全滅さるゝものであります、唯だ少數の窒扶斯菌の樣なものが生き殘る位に過ぎないのであります。でありますから深い井戸の水は不潔分も黴菌も少しも含有して居りません。そして地中にありますから炭酸瓦斯も、石灰分も多少もつて居りますので、味も佳良であります。故に用水としては最もよいものであります。所が東京にある井戸では何處を求めても斯樣な理想的な井

戸はありません、甚しいのは水が濁つて居つて、極めて不愉快なのもあります。之れは井戸の淺いといふのが一つの缺點であります、其上井戸は全く蓋を以て居りませんし、其の作り方も不潔でありますから、井戸の水は却て無數の黴菌を有し、のみならず無數の小動物が棲息して居ります。井戸の底を覗いて見ますれば、木の葉、枝きれ木片等が澤山沈んで居ります、斯樣な水を飲んで居るとは實に危險至極な事であります。

地下水が純潔であるには其の近邊に下水や、便所があつてはなりません、從つて井戸の近邊に此等の不潔なものがあつてはなりません。然るに通常井戸は人家に近くありまして、從つて其の近邊には下水便所等があります、殊に東京の樣に人家稠密な所では之れは免れないのでありますから、其の水の不潔になる度も益々大なのであります。

三、清水、岩間から滾々として流れ出る清水の水は昔から清いものと思はれて居りました。此の清水も同じく地下水でありまして、其の水の積つて居る下の地層が、ある傾斜を有つて居ります時に其の下の方で外界に通ずる孔隙がある時は、上の方より壓さるゝ力で湧き出るものであります。でありますから此の水は自然界にて人の得らるゝ最も清い水であります、其のもつて居る黴菌も極めて少いものであります。然し地下水は一般に、地層により食鹽、硫黄鐵等を含有して居りまして、使用する事の出來ないものがあります。猶は又清水に近く、下水便所、田畑等があります時は、其の不潔な水がしみ通りて清水の水に混ずる事があります。

四、河水、其源は清水とか湖水でありますが、長い流れの間には不潔な水が、田、小河等より流れ込みます、下水も加はり、肥料も加はる、工場の水も流れ込むのでありますから清潔な筈がありません。所が昔から水は三寸流るゝと清いと申しました通りで御座いまして、河水は比較的清潔なのであります。即ち工場なぞより流れて來ましたもので重いものは

沈んでしまいます。不潔なものは河底に居る無數の腐敗菌の爲めに分解されて一方は重い化合物となつて沈み、一方には炭酸瓦斯となつて空中に飛散いたします。病毒をもつて居る黴菌は日光の直射にあひまして多くは殺されてしまい、小動物及び其等の卵子は魚類或は其他の動物の食餌となつて、遂に比較的清い水となるのであります。でありますから河が數町の間少しも混合する不潔分がなかつたならば清水よりも清いものとなる事が出來ませうが、其はむづかしい事で、河水が理想的に清潔である事は出來ません、併し山の中を流れて居る河は東京の井戸或は水道より清いものが澤山あります。

五、湖水、大きな湖水で堪えず流れだして居る所なれば其の水は河の水よりも清潔であります。之れは不潔な水の入る事が少いばかりでなく、長く靜止して居りますから不潔物は下に沈むのであります。然しあまり長く靜止して居りまする時は、水が腐敗しますので不潔になります、故に水の流れ口の小さな湖水は却て不潔であります。

以上申しました中で最も清潔な水は山間に湧き出る清水の水でありますが、此れは分量が少いので、多くの人に供給する事が出來ません、そして此の清水の水でさへ其の湧き出る道で、既に多數の黴菌をもつて參りますから、一滴の水には十個内外の黴菌をもつて居ります。斯樣なわけで我々は自然界では黴菌が全く居らない水を得る事が出來ません。殊に東京のやうに塵の多い大きな町では、井戸の水の一滴は數十の黴菌をもつて居ります。且つ水道の水でさへ黴菌をもつて居るのでありますから、我々は決して生ま水を飲む事は出來ません。

最後に水道の水は如何したものであるかと申しまするに、此れは湖水或は河水を澄まして、其後砂で濾したものであります。東京の水道は多摩川の水を二千三百間(凡そ一里四丁)も遠方から引いて來て、淀橋の水道淨水所の中にある大きな沈澄池と申す池に入れ、之を澄ました上で、濾地に送り、此所で濾さ

れて市内に分布さるゝのであります。此濾地と申しますのは百七十尺の幅と二百六十尺の長さとをもつて居りまして、其の底は砂石を積みたてた凡て四尺餘の厚さを持つて居るものであります。即ち其の一番下の層は煉瓦其他同じ位の石を一尺程積み上げ、其の上は小石をつみ、漸々上の方になるに從つて砂となり遂に最も上の一尺五寸ばかりの所は最も微細な砂であります。沈澄池より出た水は此の濾池に入りまして數十時間の間に濾されて池の下に出ます。此は即ち清く澄んだ水でありまして、大きな鐵管で市内各所に送らるゝのであります。

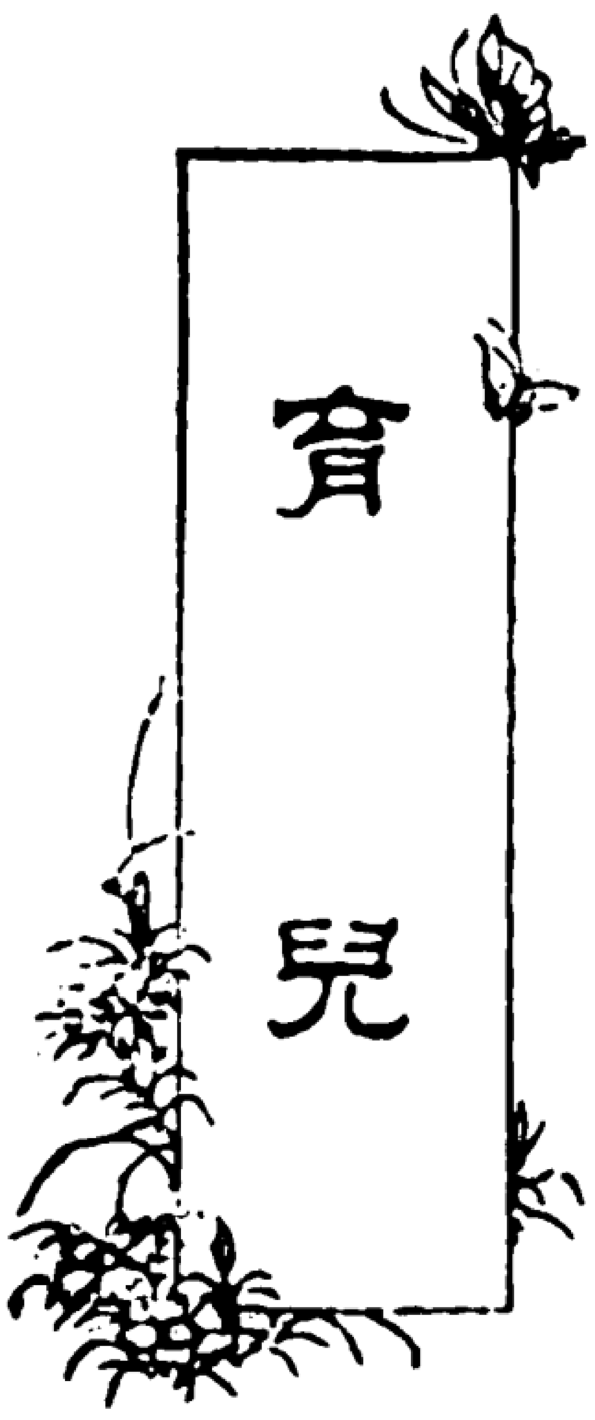
水道の水は先づ大凡斯様な裝置で清淨にされたものでありますから、黴菌が一つもないわけには行かぬのであります。時としては小動物の卵子も水道の水には見出されます。蚯蚓の卵でさへ出て來る事が少くはありません、時々水道栓から蚯蚓が出る事のあるのは、其の卵が濾された水と共に流れて來て途中で孵化したものであります。

最後に一言したい事は氷であります。東京の人は氷を飲む事を少しも恐れません。生ま水を飲まないといふて居らるゝ人が、氷となると平氣で飲んで居られます。此れは大層な間違であります、成る程物理學上より申しますれば、水が結晶する時は不純物も生物も居らない筈でありますが、實際には氷は澤山の氣胞をもつて居りまして其中には澤山の黴菌も、動物もまた動物の卵子もはいつて居ります。そして黴菌などは氷の中で長く生活して居ります、虎列拉菌の如きは氷の中で數日間生きて居つた例もあります。又或る黴菌は七ヶ月間も氷の中に生活して居つた事があるそうであります、でありますから傳染病といふ方面から見ましても氷は水と同様に危險なものであります。殊に普通の氷は山間の池から冬期間取り出さるゝものが多いのでありまして、十二指腸蟲の居る地方では、氷が其の卵を含有して居らぬとも限られぬのであります。生ま水を飲まない、水は總て煮て飲むといふ人が、氷をむやみに飲むといふ

のは誠に意味のない事であります。氷自身は假令清潔な水から作られたとした所で、氷を飲む器物は既に不潔極まるものであります。炎暑燒くが如き日に、苦しまぎれに其の一杯をすゝる人人の中には、結核患者も居りませう、癩病患者も居りませう、或は赤痢に罹つて居る人もありませう。其等の人が口にしたものを、よくも洗はずに直ぐ其の器で不潔な氷を飲むとは薄氷をふむともいふべきものでありませうか。

それ迄危險でなくとも氷は消化器を害するものであります。我々の胃は通常一度の溫度を保つて居りますが、氷を飲みますれば其の胃は急に冷却する爲めに、胃の働きは麻痺して、全く活動しないやうになります。其の爲めに胃の中にある物質は消化されないからして、胃の働きが元に歸る迄胃は蓄積して居ります、かゝる事が度々重なりますれば、胃の働きは遂に病的となりまして、遂に胃病となつてしまいます。でありますから殊に食後に氷を飲むか、或は氷と共に物を食するは最も悪しい事であります。東京でよく見る所の氷あづき、氷しるこ、或は氷に鷄卵を入れたもの等は最も不衞生的のものであります。

次に炭酸水と申しまして近來廣く流行して參りました所の、ひらの水、はこね水等の飲料があります。炭酸瓦斯を澤山含有して居る水でありまして、暑い時に飲みますれば精神を爽快にするものでありますが、此にもチブス菌が長く死せずにはいつて居た事があります、注意せねばなりません。



育兒瑣談（其六）

H。S。生

（七）齒牙の保護

齒牙は、消化器の關門で、すべての飲食物は、必ず此所を通過せねば、胃腸に達することは出來ないのである。

榮養物が、吾人の身體に入りて、消化され、吸收さるゝまでには、各器官の作用を受けねばならぬ、家に入るには、門を通り、玄關を通じて、奥の室と言ふ樣な順序と同じく、食物も先づ齒牙の作用を受けて、胃に入り、又腸に達して吸收さるゝのであるが齒の任務が、果されずに來ると、胃は更に齒の領分まで働かねばならぬ、從て自己のつとめは、忽諸になり易い、そこで吸收がわるくなり、消化不良のために、或は下痢し、或は、食物を欲せぬようになる。

小兒の齒は、初め六ケ月乃至九ケ月の間に門齒が生え、十二ケ月から、十五ケ月の間に第一小臼齒が生え、十八ケ月から二十ケ月までの間に犬齒が生え、二十ケ月から、二十四ケ月の間に第二小臼齒が生える。

それから、四年乃至五年になると、第一大臼齒が生えて、六七歳のころには、前に生じた順序を踏んで永久齒と入れ換るのである。

齒の生える時には、小兒、は精神が過敏になる、そして機嫌が悪いこともあるが、齒が生えると平常に復するものである。

小兒の時代は、身體の發育が、最も旺盛であるから榮養物を咀嚼する任務を有する所の齒を保護して、之を健全に保つことは、消化機能を完全ならしむる上に於て、肝要なことである。

されば飲食物をとつた後は、齒と齒との間に殘つて居る食片をとり、清潔にして置く。

少しく成長すると、極軟かい楊枝で、齒を磨かせ口内を清潔に保つことに慣れしめる樣にして、每年一二回は齒科醫の健康診斷を受けるやうにすればよいと思ふ。

齒牙が齲齒になつて腔の出來るのは、酸と腐敗の作用によるもので、酸は石灰鹽を溶かし、腐敗作用は

齒の有機質を破壞して　まふのである、酸は榮養物の中に含まれて口中に入り、腐敗物質は、食物の殘りから出來るのである。

肉の片破れが、齒と齒の中に這入つて、永く止まり腐敗すると、惡い臭を發するやうになる。

齒磨は、粉、煉性、液性等あるが、何れも防腐性と收斂性とを具へて、酸が混じつて居らぬものがよい。

齒磨揚子は、寧ろ軟き刷毛を撰ぶ方がよろしい。

齲齒で、腔の出來て居るものは、之を埋め、齒に鋭き尖りあらば、舌を傷ける恐れがあるから、鑢をかけて鈍くして居かねばならぬ。

あまり硬きものを多く咀嚼し、又冷に過ぐるもの、熱きに過ぐるものは、齒のためには、よろしくない。

學童の看護（承前）

秋山柴朗

小兒が學校へ參る時間は、チヤンと正しくきめて、又退校の後は、きまつた時間に家に歸る習慣をつけねばなりませぬ。

小兒が學校から午食を喫べに歸つた場合には先づ手を洗はせて然る後に御飯を與へます。若しそのまゝに放置ておくと、食物と一緒に、手に着いて居た不潔なものが口に這入り、胃に達して、思はぬ危險を生ずることがあります。

僅かの不注意のために口は禍の門と言ふ諺が、現實されることになります。

學校の課業は、また午後にある場合には消化のよい、輕い食物を食べさせる方がよろしい、あはてゝ食べさせたり、又十二分に喫食ることはいけませぬ。

食事の後は、少くとも、一時間は、課業を休まねば

ならぬ。
食事の時によく咀嚼で喫べて置くと、消化が容易になります。
されば、小兒に
早く御飯を結了たものが豪いのだ、
行儀がよいのだ。
などと、小兒の名譽心を惹き起さしめて、知らず知らずの間に不衛生を斷行して顧みない様では、その害も恐るべきです。
食物が
無闇に熱かつたり、又劇しく冷えた
ものはよくない。
又榮養の十分なものを選ぶことも必要だし、同じものでうまく、調理することが大切です。
いくら山海の珍味でも不味間は十分
な榮養とならぬ。
いつも旨く食べることが出來れば、それが何よりの榮養になります。

小兒が食物を喫べぬ場合には、これを輕卒に捨て丶置いてはいけぬ、「何故？」と言ふことを考へて、其原因を探ぐることが必要です。
時によると、學校へ行くのが嫌いであつたり、或は學校で何か悪いことをして、説諭を受けたとか、又は、買喰をしたとか、友人から、何か貰つて喫べたとか、或は病氣のために、喫べない様なこともあります。
若し
身體に異常のあることを見出したな
ら輕い間に醫者に相談する
のが最もよろしい。
前にも言つた如く、食物は、旨く食べると言ふことが、大事であるから、いろ〱に調理をかへ、品を替へ、物を換へて、味も適當につけねばならぬ、殊に小兒には、劇しい辛いもの、無闇に甘いものなどは、注意せねばなりませぬ、咖啡や、麥酒や、茶や酒などは、最も注意を拂つて置かぬと、慣ひ性とな

りて、禍を千秋に貽す樣なことがある。

食物を消化して、身體の榮養にするには、各々其受持ちの役目を務めるのであります、されば若しある部分で、其責任を盡さない場合には、他の部分で一層骨が折れることになります。

齒の役目は、食物をよく嚙み碎きて然る後胃に送ることである。

食事の後、一定時の休憩をして、然る後に適當の運動をさすことも大切であります、又家の用事の簡易なものをさせて、仕事に馴らせ、且自助の精神を植ゑつけて置く樣にすると宜しい。しかし

小兒に負擔の多い用事を命ずることは身心のためによろしく無い。

力以上の荷物を積むと、餘儀なく馬は倒れます、これと全く同じく、學校の課程でも、家の用事でも、重きに過ぎると、そのために弊害を被ります。すなはち其爲めに精神を休める時間が少くなる、睡眠の時間が止むを得ず短縮すると言ふわけで、身心の爲めに影響をうけることは當然のことであります。

小兒の過失を責め、又はこれを矯正する目的で無闇に亂暴な罰を加へることは、よろしくない、殊に身體を傷める樣なことは斷じていけませぬ。無闇に小兒の

頭腦を叩いたり、脊中を打つと言ふことは小兒を馬鹿にする鍛錬とより外に考へられぬ、世には不注意の爲めに、親が自ら小兒にこの鍛錬をなして居るものが少くは無い。思はざるの甚しきです。

學校の課業がどうしてもいやでいやでたまらないやうなときには、叱つたり、打つたり、叩いたりする代りに、醫者を招いて相談をするのです。これによりて

不勉強や、怠惰が、思はぬ疾病から原因して居ることを發見することがあります。

斯かる事柄は、子を持てる人々の大に注意を要することである。

萎黄病、貧血、頭痛などは、不健康な生活をして居るもの、殊に女の子によく起り、これが又身心發育の妨げになるやうなことがあります。

又女の子は、永い間

細かな仕事を續けてさせたり無理に

仕事を練習させることはよくない。

それ故、小兒を取扱ふ教師なども此ことについては大に注意をして頂かねばなりませぬ。

それであるから、すべての

學課を適當に修得ると言ふことは何

よりも大切であります。

小兒が、何か書く時の有様を御覧になると、或は、頭を傾け、或は、上身を曲げ、或は屈んだりして、千態萬状とでも言ふべき様を御氣づきになりませう。

目と字との間は、約一尺より短くな

らぬやうにするのがよろしい。

尚ほ、腰掛の高さ、机の高さ、机と腰掛の距離等は十分に注意をして、其ものに適當にすることが大切であります。成るべく其小兒に適當したものを買つて、學校に置くやうにしたいものです。

ものを書く時には、光が（窓又は燈）

左の方から來るやうにして

讀書、書取、裁縫等の業は、うす暗い所では、一切これをさせてはいけませぬ。

母親の役目のうちに加へて、注文を致したい其一つは

毎月小兒を裸體にして上から下まで

よく檢査をすること

である、即ち、脊柱は、曲つては居らぬか、肩の骨は、兩方とも同じ高さか、肋骨が突出やうなことはないか。其他の異常の有無を檢べて頂きたいことであります

（以下次號）

家庭衛生

家庭衛生漫錄（其一）

醫學士　S　U　生

酢に就きて

今迄は、食物の料理に用ゆる酢は、單の酢でありましたが近年から酢に多少の枸櫞汁を加へて用ゆる様になりました、其理由は後に申しまするが、之れには相當の根據があるのであります。坊間の不潔なる酢、又消化管壁の粘膜を刺戟致しまする強いものは、良くありませぬ、遂には一種の病氣を惹き起す恐れがあります。

酢の製法は、一般に、主として速成の簡便法によるのでありまして、西洋では酢をブランデイを醱酵さして作り之れを五倍に薄めるのでありまするから、強い酢丈け酒精分を多量に含むで居ることが分かります。吾國では日本酒を普通醱酵させて作ります。

酢の主要なる成分である醋酸は、一種の脂肪酸でありまして、酒精が酸化して出來るものであります。而て之れが有機物の内で燃燒して、炭酸と水とに分解致しまして、其際に化學的潛勢力を與へるものであります。然し酢は酒精の樣に、食料と見做しては不可ませぬ。酢には一種芳香性の臭氣が具つて居まするが、之れは其中に含むで居るフーゼ油が醱酵して、梨子エーテルと云ふ揮發性のものを作る爲めて御座います。

酒から製造する酢は、今日でも在來の習慣通り、極緩漫な方法で、醋酸菌の作用によりて、酒精液の酢酸醱酵を行ふて作りまする。其外木醋から一種の酢を作つて、坊間に鬻ぎまするから、之れを料理に用ゆることもありますが、之れは人間の飲むべきものではありませぬ。木醋とは木を乾餾したものを、水で淡めたものであります。　或病氣即ち凡て貧血を起

す病氣に罹りまするこ、ひどく酢ばい食物が食べたくなります、懐妊中に酢ばいものが嗜好きになることは、生理的に起る現象であります。又酢は食慾を亢進致しまするから、熱病の時など凡て食慾の亢進しないときには、一般に酢の料理を好むものであります。然し乍ら酢の亢用が度重なりまするこ、消化器の加答兒障碍を起しまして、嘔吐下痢等の症狀を呈する樣になります。近來行はれまする樣に、酢に枸櫞汁を混合せまするときは、以上申し上げました酢の誤用又は不潔なる爲めに起る障碍を、未萌に防ぐことが出來るのであります。

食物の黴

食物に黴の生へることは、一種奇異な現象でありまして、黴びた果糖とか莓とか、菓子などを特別、好むで食べる人がありまして、斯ふ云ふ人には黴の毒に就きては一寸も氣が付かないのであります。而して黴は乾酪などに生ずるのを却て貴ばれる向きも御座います。又動もすれば、果實の熟した外見をさせ樣とか、一種の味をつけて高價に賣り出さうと云ふ考へから、業と黴を生へさすことが西洋ではあるそうで御座います。然し之れも見解によりては理由がないでもありませぬ。黴の生へるのは腐敗の第一步であると同時に、能く熟したことを現はすのであつて、一番消化し易く又一番美味い時期であります。乾酪などは兎に角、閹牛の肉、鳥肉等を料理する前に空氣中に長く吊るして置きまする、しかし夫れが爲めに腐敗させては不可ないが、そうでなかつたならば、消化し易くなり又一層美味になります。黴の生える所は、最も熟した最も濕つぽい所を好むのであります、同じ食物でも黴の生へた儘で食べたならば害毒を蒙りまするが、乾燥させるとか、鹽漬にして食べますれば無害で御座います。其れ故肉を貯蔵する爲めには、表面を乾燥させる爲め、空氣の流通の佳い所に置くことが必要であります、しかし、果糖、果實は元來濕潤たものでありまするから、乾かすことは出來ませぬ。要するに多の食物に黴の生へ

ると有害のこともあり、又無害のこともありまして一定して居ないが、矢張り學者間でも定說がありませぬ。それでありますから、好むで危險に近く必要もないから、黴の生へた食物を避けるに越したことはありませぬ。

　健康なる血液と、健康なる神經

血液は生活の源氣でありまして、人間が母親の胎內にあつて、未だ玆の世の光線に當たらず、玆の世の空氣を吸はない前から、永久不變堪へず、體內を馳け廻つて、死と共に初めて其の活動を終めるので御座ります。血液は血管と云ふ閉鎖した天地の內を流れて、全身を流動するのでありまして、心臟は恰度喞筒の樣な作用を致しまして、其所から止みとなく運動するのであります。血液が心臟を出て肺臟に達しますると、此處で呼氣、吸氣の際、身體の不用なガスを吐き出して、其換りに空氣中の酸素を貯へ込む働きを致します。吾人が此の活世界における活動は、此の循環中に取る食物に歸するのでありまして、血液循環中に酸素を使ひ盡したならば、新陳代謝の爲めに出來た不用物を凡てかき集めて又之れを、體外に排出するので御座います。

血液を肉眼で見ましたら、只薄赤き液體たるに止まつて、別に何物が含まれて居るか分かりませぬが、一度之れを顯微鏡下に照しますると、驚くに堪へたるものを發見致します。先づ眼に附くものは、二種の血液中に浮游するものであります。之れを熟く見て居ると大きな無色な細胞があり、其形態が換はり詰て居りまして、平たくなるかと思ふと又細長い手を出して、其の手の方へ全體が運ばれるのが分かります。之れは白血球でありまして運動も出來れば又外の物を體內に摑み取ることも出來る能力を有して居ます。此の白血球の數は、比較的尠なくて顯微鏡で數へると、赤血球五百に對して一つの割合に當ります。赤血球は自ら動く力はなく形は圓くて、兩側が扁平たくて凹むで居まして、血液中で最も重いものでありまして、此のものゝ爲めに血液は赤色に又

不透明になるのであります。血液の化學上の成分中で最も必要なものは有機鐵であります。健康な人の血液中の鐵の含量は一定して居まして、比較的多量にあります。

次に兩血球の作用を御話致しましよう。白血球は人體の榮養と新陳代謝に對して與つて大に力がありまするが、赤血球の方は呼吸時に缺くべからざるものであります。

赤血球は血色素を含むで居まして、血液循環中に接觸した瓦斯を吸收して又機を見て排出する所の能力を有して居ます。其れ故呼吸時に吸ひ込むだ酸素と結合して之れを組織に與へ、其の換りに新陳代謝の剩餘物として出來た炭酸を受取ります。斯う云ふ理由のものでありますから一朝赤血球及び血色素の減退する病氣卽ち貧血症殊に萎黃病と申して處女期から、破爪期に移るときに罹り易い一種の婦人病でありまして、劇しい貧血症狀が起ります。それ故吾々の健康は一に血液の量、血液の性質に負ふ所決して尠なくないのであります。健康な血液の規則正しく流動することは、器管の作用を遂す上に就いて是非共缺くべからざるものであります。例へば耳が嚴しい寒さに逢へば、血管が非常く收縮しまして血液は組織内から追ひ出されますから、血流が不充分になりまして、遂には凍傷に罹るので御座います。又老人の足の血管は、血管壁の化石に陷り易いから、壞疽に罹つて足の先きが腐れてされて仕舞ふことがあります。之れも血管が閉塞しますするから、血液循環が絶える爲めであります。

就中神經も一定量の血液を以て、規則的に給養はれねばならないのであります。然らすんば神經は急に抵抗力が弱り其働きも鈍つて參ります。それでありますから、貧血症の人は、大抵神經衰弱症に罹つて居ると申しても、決して過言でないことは、誤らない事實であります。神經衰弱に罹ると色々の症狀が顯はれまして、其内でも一番著明なことを一二申しませうなら、短氣になりて些細な事にでも

怒りつぽくなり、又一物に精神を集注る事が出來なくなるから、熱心に業務に就く事が出來ない、其外頭痛持ちになるとか、夜も眠れないとか、記憶力の減退とか、眩暈、少し運動しても動悸が高まるとか又充血とか色々の症狀の爲めに惱まされます。つまり貧血症の主要な症狀は神經衰弱と一致することになります。次に貧血症である萎黃病の治療法を、簡單に申し上げましよう、要するに此の療法は、赤血球の製造を刺戟してやり、血色素の量を增してやる方法であります。在來の經驗上、食物を換へる丈けでは、不十分であります。食物もあまり酸ばいものは良くありませぬ。又野菜類を多量に食べることは良くありませぬ。凡て醫師から此病氣に惡いと認められたものは避けねばなりませぬ。其の換りに消化し易いもの、鐵を含むだものは食ねばなりませぬ。先づ牛乳は其目的に適つて居ますが、鐵も食物中に含むで居る量丈けでは足りませぬから、どうしても別に鐵劑を飲まねばなりませぬ。以上申しあげました食物や藥劑の外に、身體の強壯と休養とを謀らねばなりませぬ。之れには冷水浴、冷水摩擦、適度の運動等は必要であります。室内にあつては成る可く窓を明け放して新鮮な空氣の流通を能くなし、殊に一碧千里の海濱とか夏猶ほ寒き老杉翠松の生ひ茂れる山間などに、轉地することは最も適當であります。斯ふして醫の命に從ふて居る内には體量は增してくるし、今迄は頰骨高く突き出し、眼は鋭く冴へたる蒼白い瘦顏は、一變して頰も豐かに、顏色も艶々しく赤芙蓉の花瓣にも似通ふ娘盛の容貌に立ち歸つて、神經過敏は何時の間にやら消失せて、血液は健康な狀態に戻りまして、天の賦與へた神經の働は元の如く仕遂げ得る樣になるのであります。

病人の榮養品（承前）

A、S、生

牛乳の榮養價と消化如何は牛と乳と

の關係に由る

（一）牛の飼料　世の人は一般にみづ〳〵した春草で飼養はれた牛の乳が良いと云ふやうに思ふて居るやうですが、是は間違であります。

斯樣な飼料で養はれた牛は、大概下痢や其他の消化障碍に罹て居るものであります。春さきや夏の初に斯樣にして飼養はれた動物の乳は、最も良ものとは申されませぬ。馬鈴薯屑や、麥酒滓などで養はれた牝牛は濃い乳を出すものであります、其の最も善良て同時に最も滋養になる乳を出すのは、枯草で飼養はれたものであります。

（二）只今申上ました事や、其他の牛の體の關係などより致しまして、牛乳は何時でも同じ牝牛のものを用うるやうにしたら善と存じます。

（三）乳牛にあてるものには、車などを牽かせてはなりませぬ。また十歳以上を超えたものは不可ませぬなほ牝牛の身體が健康でなければならぬと云ふことは申すまでもないことであります。

牛乳の貯藏法

貯藏の仕方は又牛乳の性狀に大影響を及ぼすものであります。

概して煮た乳の方が、生乳よりも貯へ易いものでありまして、一度酸くしたことのある御方は、牛乳の貯藏には特に注意しなければならぬと云ふことは、皆御承知のことゝ存じます。それで牛乳は滑澤な磁器の中に入れて置くやうに致しまして、其の入物は常に能く清潔にして置かねばなりませぬ。又酸くなつた乳の殘物は、直ぐ醱酵素として作用致しますから、他の乳も酸く成てしまひます。

乳を貯へて置く場所は、その酸性醱酵を防ぐ爲に、凡そ六度から八度位の涼い所であれば結構であります。其他の食物、殊に氣の立つやうな或は臭のするやうなものは、一切これから遠ざけることに致します。

善良牛乳と不正牛乳の特徵

牛乳は、其他の商賣品よりも不正な物が多く、その

品質と分量の不正なのであります。
その分量の方の不正なのは、まだしもでありますが、多くは水を注したり、乳脂を取たりして牛乳の含量を少くしたり、薄くしたりするのであります。
牛乳の固形成分が乏いか、即ち薄められたかどうかを見るには、所謂乳汁計を用うるのでありまして、是で以て其の比重を計るのであります。善い牛乳は三十度から三十五度を示しますが、これより低いのは薄くされたのであります。
贋物の特に宜敷ないのは、牛乳の品質に係るもので是は直接健康上害になることであります。
普通行はるゝ贋造法は、石灰、澱粉、大麻油、などを混せるのでありますが、斯様な贋造は、化學者でないと十分に確定める譯には參りませぬ。
乳汁計を持たず亦化學者に頼む便もない御方では、次の簡單な實際的の特徵に依て牛乳の正味を判斷するのであります。
(ア)新しい牛乳は、決して酸性の反應を呈することなく、亞爾加里性であるか、少くとも中性であります。液體の酸性であるか或は亞爾加里性であるかを定めるには、所謂「ラクムス」紙を用うるので、これは何れの藥店でも賣て居ります。一つは赤い紙、一つは青い紙でありますが、若し液體が酸性であれば、之に浸した青い「ラクムス」紙は赤となるか或は赤味を帶びて來ますし、若しまた液體が亞爾加里性なるときには、赤い「ラクムス」紙が青い色になりますが、中性であるときには、何方の紙を浸して見ても、元の色で變がありませぬ。
(イ)善くて、十分脂肪に富で居る牛乳は、其色が純白で、指の間で以て脂濃いことが分ります。薄くした牛乳は青味がゝつた色艶をして居ます。
(ウ)善き、不正でない牛乳は、水よりも重いもので水の中に一滴垂して見れば、その底に沈みます。善い牛乳なれば、その一滴を、硝子板、金屬板、或は磁製板の上に垂すに、球のやうに丸い形をして居りますが、牛乳の著しく薄いものであれば、これが流

れ散るものであります。

（以下次號）



質疑

問・小兒の種痘は生後何ヶ月位より施してよろしく御座候や何卒御教示被下度願上候

五月二十六日　愛知縣一會員

答・先々月法律第三十五號を以て公布になりました種痘法第一條の一にも、出生より翌年六月に至る間とありますが、成べく早く種痘すべきであります。從來生後間もなく種痘するを危惧する風習があるが是は誤です。初生兒、虚弱なもの又病身の兒に接種るときには、二つ以上さへ接種なければ氣遣はありませぬ。但し其時は翌年また接種なほすことが必要です。流行の危險ある時などには、生後何ヶ月など云はず早速種痘して置くが何よりです。痘瘡死亡者の四十％位は滿一年を超えぬ乳兒であり、又罹ても其十數日前に接種た者は非常に輕く、殆ど死ぬやうな事はないのを見ても、早く種痘することを御勸致さねばなりませぬ。種痘は誠に完全な豫防法であると申して差支ないのであります。



雑報

○赤十字社總會

日本赤十字社第十七回總會は、本月四日比日谷公園に於て擧行されたるは、既に諸新聞紙の報道せる所なるが、諸般の設備も十分に行屆き、特に式場の有樣玉座の模樣頗る目を驚すものあり、午前十時四十分には　皇后陛下式壇に臨御あらせられ　親しく令旨を賜ひ、總裁殿下の奉答ありき。御令旨に曰く

本日赤十字社第十七回の總會に臨み各員を見るを喜ぶ、客歳は韓國に於て社員總會を開きたる趣、追々斯業の發展は滿足の至りなり、尚將來本社の事業益々盛大ならむ事を望む

答　辭

日本赤十字社第十七會總回に方り
陛下親臨優渥の令旨を賜ふ誠に無上の光榮なり
陛下の眷護愈々厚きに從ひ國民の協賛益々深く職員亦内外の狀勢に稽へ協力能く其職を盡し社業年を逐ふて隆昌を致せり
今や本社の專ら勉むる所は救護準備の完成と基礎の鞏固とに在り自今一層奮勵して速に此目的を遂し以て　隆恩萬分の一に報い奉らんことを期す
謹で奉答す

此時玉座の左右に立たせられしは、皇太子殿下、同妃殿下、伏見若宮妃、東伏見宮妃兩殿下を始め、寺内陸相、齋藤海相、川村大將、花房、小澤の兩副社長等なりき。
尚ほ當日の參列員は其數四萬と註され、未曾有の盛況を呈せり。

○赤十字社の現況

赤十字社の平時竝に戰時に於ける事業は、年と共に益々盛大と成り來れるが、今松方社長の報告によれば其現況次の如し。昨四十一年末に於ける社員總數は百四十四萬三千四百二十人にして四十年度より増すこと四萬六千七十六人、年醵金額は三百五萬七千四百八十圓九十錢にして四十年度より減ずること四萬二千餘圓、又救護員の總數は三千九百四十八人にして此内社の養成に係る看護婦二千七百九十七人看護人六百五十六人あり、救護員の總數に於て四百二十四人を減じたるも看護婦は二百十四人を增加せり救護員の養成及び戰時陸海軍病院に供用すべき目的を以て開設したる病院は、東京本社病院の外支部病院九個及び旅順に於る滿州總委員部に屬する關東州病院にして、現在十一個病院を有し、社の根基資金は九百六十八萬七千六百六十七圓にして四十年度より増すこと百五十六萬圓、財產總額は千六百七十萬三千七百七十二圓に達し四十年度より増すこと二百五十七萬圓なり。

○醫師と人口

最近に於ける内務省の調査に依れば、全國の醫師總數三萬五千八百五十八人にして、之を人口四千八百五十三萬五千餘人に配すれば、千三百五十人に付き醫師一名の割合なりと。

○ペスト患者

横濱のペストは蔓延の勢あり。東京市に於ても日本橋、京橋、淺草、下谷の各區に亙りて有菌鼠を發見し、防疫事業は急に多忙を極めしが、本月十日に至り遂に京橋區よりペスト患者を出せり。之が爲に衛生會は全力を盡して其の豫防撲滅法を講じつゝあることなるが、山田博士を會長とせる京橋區衛生會にては、兼て補鼠隊を組織して鼠族を驅り、區内各小學校に於てペスト豫防講話會を開き、尙ほペスト豫防心得を各戸に配附せしめたるが、その鼠族及び蚤に對する心得なるものは左の如し。

鼠族に就ての注意

(一)鼠族は本病の宿主なるが故に之れを驅除するを第一の務とす殘念ながら日本の多くの家屋は鼠と同居の姿なるを以て少くとも鼠の往來する場所には金網を張りて之を防ぐを良とす

(二)家屋の内外特に棚牀下等は時々掃除して鼠の棲息せざる樣にすべし

(三)ペスト鼠の排泄する糞便中には多數のペスト菌を存するが故に鼠糞は二十倍の石炭酸若くば石灰乳の類を注ぎ消毒するを良とす

(四)捕鼠の爲め猫を飼養するは良きなれども流行時は可成捕鼠器を使用するを良とす捕鼠器は使用後其種類に從ひ一度火中にて燒くか或は石灰水にて洗へば一具にて幾匹にても捕獲し得るものなり

(五)鼠を取扱ふには火箸の類を用ひ用後は火中にて燒くを良とす決して直接に手を觸るべからず

(六)鼠を捕ふる爲め其通路に黐を附著せる紙を置くも良し鼠一度之に觸るれば直に紙に席捲せらる

蚤に就ての注意

(一)ペストを病鼠より人に感染せしむる媒介者は主として印度蚤(ピユーレックス、ケオピス)と稱する一種の蚤なれども他種類の蚤も亦注意して驅除することを勉むべし

(二)世人除蚤の目的にて「インセクト」(除蟲菊の粉末)を用ふれども之れは只一時蚤を麻醉せしむるのみのものなるが故に寧ろ殺蚤の力ありて尤得易き揮發油を用ゐるを良とす

(三)蚤の棲息せる場所には先づ揮發油を噴霧器にて撒布し後ち掃除するを良とす

(四)疊の下の蚤を驅除するには先づ疊を裏返して日光に曝らし何人にも藥店にて買ひ得らるゝ「ナフタリン」と稱する藥品を五十倍の水に溶解し撒布するを良とす

大日本婦人衛生會記事

○本會役員會

先月五日午後事務所に役員會を開き、總會殘務、講師招待、六月例會に就て議し、役員一同各金貳圓五拾錢を總會に寄附し、服部繁子は穗積歌子に代りて評議員に當選す。當日の出席役員は、濱尾、鳩山、吉武、三浦、岡田、高木、石川、濱田、土肥、小川田村の十一名。

○講師招待會

五月二十九日午後六時より麴町富士見軒に講師招待會を開く、席上鍋島會長の挨拶ありて和氣堂に滿ち、肉叉庖刀の響微に清く笑談四筵に湧く比、片山博士起て本會の隆昌を祝し、併せて會長以下の健康を祝せむと提議され、一同杯を擧げて之に和し、歡を盡して散會せられしは九時過なりき。當夜の來賓講師は片山博士、岡田博士、田代博士、富士川ドクトル、森田、內野、石原の三學士、土田、三田谷の諸氏にして、主人側に於ては、鍋島會長を始め濱尾副會長以下鳩山、高木、岡田、三浦、丹波、土肥濱田、田村、中濱、宮下、高橋の諸役員なりき。當夜鍋島會長より金拾圓寄附せらる。

○六月例會

六月五日午後一時半より一ツ橋通り女子職業學校に例會を開く、本日の講師富士川ドクトルは、身體及び其保護なる題の下に、例の簡易にして趣味ある古今東西の材料を取捨して我邦に適切なる、手と足の保護に關する有益なる講話あり。今回を以て此の二年間に亙て本會の爲に講演されたる身體及其保護の

話を完結せる旨を告げられ、次に久野醫學士の脊髓の話てふ高尙なる講演あり、終て別室に役員の相談會を開き午後五時散會せり。

富士川ドクトルの身體及其保護は別に一冊子と成して本會より出すことあるべし。

尙は本日出席せられし役員は、濱尾副會長、鳩山、田村、岩下、土肥、石川、松平、岸、長谷川の諸員なりき。

○山形支會通信

▲例會

五月八日午後一時より女子師範學校に例會を開く、出席會員約四十名、育兒に就て姉川醫學士の講話あり、後割烹實習ありて午後四時頃散會せり。

▲總會

五月二十三日には午前九時より當市武德殿に於て總會を開き、出席者約八十名來賓三十名にして非常の盛會なりし、席定まるや馬淵會長開會の辭を述べられ次で友田講師幹事に代り會計庶務の報告をなし役員改選ありて後馬淵知事來賓を代表し謝辭と共に希望を陳べられ、佐々木講師道德と衛生と云ふ題にて談話あり、是に式を終り一同種々の參考品を觀覽して後園遊會に移る、來賓には別室に於て會員の手料理を饗し、餘興には令孃方の遊技蓄音器浪花節等あり、一同撮影、各々歡を盡して三時頃散會せり、當日來賓の主なるものは、馬淵知事、佐柳內務部長澤田事務官、高木檢事正、津田女學校長、新聞記者講師諸氏、齋藤旅團長夫人、岡澤聯隊長夫人、戶田裁判所長夫人等なりき。

▲役員當選者

會長	馬淵よし子		
副會長	新關たん子		
幹事	佐柳千代子	幹事	高木孝子
同	津田通子	同	國井よしを
同	鈴木まよ子	同	佐藤たみ子
同	友田ため子		
評議員	中村松代	評議員	長谷川こと子
同	長谷川ゆう子	同	三浦ます子
同	關原かめい子	同	村井せい子

評議員　清田ちよ子
同　飽川こはま子
同　西野きぬ子
同　澤田しづ子
同　三川こう子
同　坂口よし子
同　宮島こう子
評議員　遠山そめ子
同　江尻しむ子
同　河原たね子
同　秋　えい子
同　山岸きみ子
同　姉川あき子

▲當日の寄附

金三圓　馬淵知事
金二圓　佐柳内務長
金一圓　新關市長
金三圓　遠山景精
金三圓　友田保登
金一圓　戸田たき子
甘酒百人分　西野きゐ子
大判寫眞　松村寫眞館
金二圓　馬淵會長
金一圓　新關副會長
金一圓　山岸きみ子
金一圓　三浦ます子
金一圓　長谷川こと子
金一圓　高木檢事正
金三圓　清田梢
金三圓　鶴田健次郎

○高崎支會通信

▲第七總會

四月二十六日第七總會を開き支會長以下各役員の改選を行ふ其結果左の如し

支會長　星野きよ子
副會長　相川すか子
幹事　土谷ひやく子
同　三橋ひろ子
幹事　齋藤れう子
同　長谷川りて子
幹事　内田くり子
評議員　高草木かね子
同　相川はま子
同　財津いく子
同　渡邊龜子
同　山崎けい子
同　津田しの子
幹事　津田くめ子
評議員　天利いし子
同　佐藤たね子
同　相澤小松子
同　高橋篤子
同　新井いち子

▲現在會員（六月）

終身會員

土谷ひやく子
三井田婦美子
星野きよ子

特別會員

林はま子
吉村ゑい子
相川すか子
小澤みね子
高草木かね子
秋元はつ子
落合きよ子
小林ゆき子
篠原巳和子

通常會員

岩田たつ子
飯塚とさ子
岩崎つね子
長谷川りて子
富岡あい子
小澤てる子
小倉みつ子
綿貫もり子
横堀よし子
横山よし子
高橋まつ子
津田しめ子
石井ひさ子
飯塚とく子
岩本のふ子
橋本その子
大山うら子
小保方茂代子
大澤錦子
澁谷操子
吉田芳枝子
高山はる子
反町せい子
津田しの子
井上けん子
乾てい子
蜷山きち子
別當富士江子
岡田りき子
小竿けん子
小島げん子
渡邊龜子
横山しげ子
高橋つね子
塚越まさ子
塚田さゑ子

中村さだ子　長澤はる子　中島よれ子
中村さつの子　長井とよ子　村田とし子
村上まつ子　倍澤たき子　野中八重子
山口かの子　山田はな子　山下甲子
松本うた子　松尾光子　松本泰子
松宮晴子　福田愛子　深町なみ子
古屋はる子　小林滿智子　後藤きい子
小島ふじ子　相澤小松子　相川とり子
天利いし子　芥川たつ子　新井いち子
新井幸枝子　淺井時子　佐藤松枝子
財津いく子　齋藤れう子　櫻井くに子
齋藤よう子　佐藤たれ子　木戸のぶ子
岸しづ子　三橋ひろ子　水谷蝶子
神保ゑつ子　樋口すみ子　樋口てる子
關根とく子　作谷しづ子

支會限會員

笠原たか子　松尾好子　相川はま子
秋元つれ子　清水千代子　清水かし子

終身贊成員

岡本六左衛門

特別贊成員

星野藻光　土谷全次　秋田聰太郎

通常贊成員

田部井巳之八　反町愼哉　深井小五郎
小林春造　木檜三四郎　齋藤壽雄
渦淺勝太郎　關龜齡　井野守司

篤志贊成員

小幡氏豊

▲例會

第七十三例會を五月三十日午後一時より同市柳川町幼稚園に於て開會左記の講話ありたり。

清潔法に就て附赤痢病の豫防法　秋田講師

〇新潟支會通信

▲地久節祝賀式

五月二十八日午後一時より高等女學校に於て當支會と當市婦人教育會と聯合の上嚴肅なる司式の下に地久節の祝賀式擧行午後二時閉會せり。

▲賞盃披露會

當支會と新潟市婦人教育會との聯合に成る、兩會が日露戰役中後援の功勞を嘉し過般賞勳局より下賜ありたる銀盃披露會は、五月三十日午前十時より白山倶樂館内に於て擧行されたるが會員の出席百五十餘名の達し來賓としては橋本縣視學、長井縣衛生會理事、竹山、澤田、前田、中村、長谷川、各國手、

江口師範學校長、安田女學校敎諭、根津高等小學校長、小林新潟新聞主筆出席あり、高田女史司會、開會の辭を述べ、兩會員君が代の合唱あり、和田夫人御沙汰書及通牒を朗讀し、江口師範校長、長井衛生會理事の祝賀演説あり、終て園遊會に移る、鮨、辨當、菓子、團子等の模擬店あり、來賓には階上にて會員手料理の饗あり、一同紀念撮影後琴曲、手品等の餘興ありき。

○本會入會者

○事務所申込

●三重縣志摩郡長岡村弘道尋常小學校内　通常會員　磯和くすえ子

○白澤彌與司子紹介

●埼玉縣利島村大字參倉　通常會員　小室銜子

○石川さだ子紹介

●牛込區大久保余丁町八十二　通常會員　行山秀子

○岩田もと子紹介

●小石川區音羽養生所内　通常會員　大塚りう子

○濱尾作子紹介

●麹町區中六町九　特別會員　秋原淳子

○佐柳千代子紹介

○山形支會

●特別會員　菊井信子

●特別會員　森ちかえ子

●特別會員　村井せい子

○木俣もと子紹介

●特別會員　染谷ふさ子

○河原たね子紹介

●特別會員　永田かね子

○戸田たき子紹介

●特別會員　永島のぶ子

●特別會員　鶴田月子

○伊藤たま子紹介

●通常會員　工藤たい子

○山形支會員資格變更

●特別會員ニ　通常會員　三浦ます子

●特別會員ニ　通常會員　長谷川こと子

●特別會員ニ　通常會員　長谷川ゆう子

●特別會員ニ　通常會員　山岸きみ子

●特別會員ニ　通常會員　三川こう子

○轉居

●横濱市野毛町三ノ一二〇へ　角田常子

●赤坂區青山南町五ノ四五へ　町田まつ子

●宮崎縣赤江村字恒一三六四二　齋藤せい子

●相州鎌倉大町一一一六へ　崎川千代子

●牛込區牛込若町三七へ　齋藤きよ子

●神奈川縣鶴見五五七へ　鈴木石子

●神奈川下反町二三七へ　神谷美香子

タカヂアスターゼ

◉**消化不良**に就て熊本醫學専門學校長**谷口博士**は曰く、澱粉不消化の徴候たる胃の曖、火疼痛、溜飲、腸内瓦斯瀦積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ榮養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと、又本邦消化機病學の泰斗**長與博士**は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ずと、

信ずべき統計に徵すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因す、さればタカヂアスターゼは胃腸障害に對する最も有力なる藥物なり。

タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區本町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらるる孰れも眞正品なり

◉**消化力強**大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる**本田博士**の學位論文に徵するに坊間に販かる、多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し**數倍**乃至**十數倍**を用ゆるにあらざれば之と同効を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は**眞正品**他は**摸造類似品**たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの說明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

◉世に幾多の摸造品及類似品あり**高峰博士發見の**タカヂアスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舖にて取次販賣す



◉**營養增進**の目的を以て虚弱者貧血者重病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし榮養自ら增進し體力速に恢復するを見る、殊に**肺結核**患者に之を應用すれば其効力著明なりされば、大阪高等醫學校長**佐多博士**は曰くタカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所とすと、又在京の**栗本博士**は曰く今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すと、**柴山博士**も亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧げたるを公示せられたり

◉**藥効均等**論は輓近醫學者間に唱道せらるゝ所なり、内務省衞生試驗所長**西崎藥學士**の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは行購求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の効力は固よりグリカーゼの効力も亦常に一定せりとタカヂアスターゼの効力毎常一定なるは其特長なりこれパークデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ、タカヂアスターゼの用量は一回〇・一—〇・三錠劑(〇・一三)なれば一錠—二錠毎食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に註明す

（後附ノ一）

◎女子師範學校四ヶ年の課程を二年にて獨修せしむ ◎毎月二回發行

女子師範學講義録

見本付會則 申越次第進呈 ◎講師 東京女子高等師範の教授教諭十數名 ◎奬學金 會員奬勵のため千圓を支出す詳細會則にあり

此際入會特典あり ◎東京市牛込區西五軒町十四番地 (電話番町一三〇六)(振替一七〇〇二) 帝國女子師範學會

新學期開始

(後附ノ二)

婦人界唯一の
週刊新聞

婦女新聞

女子教育界の
公共機關

毎週金曜發行 ◎創刊以來滿九年

定價 一ヶ年前金一圓六十錢△半年八十四錢△三ヶ月四十三錢△全國無郵税△三ヶ月以下注文謝絶す

一般の婦人にして婦女新聞を讀まざる者ありや
若しあらば時勢に後るゝ事を顧みざる人なり

女子教育家にして婦女新聞を讀まざる者ありや
若しあらば其の職務に不忠實の人といふべし

婦人問題研究者にして婦女新聞を讀まざる者ありや
若しあらば其の目的を達する事能はざるべし

東京市牛込區西五軒町十四番地 (電話番町一三〇六)(振替二八〇七) 婦女新聞社

新案特許一〇三六二號

衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより舊式のもの〻如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

◎丸髷 金十五錢より 金七十五錢迄

◎島田髷 金三十錢より 金壹圓五十錢迄

◎銀杏髷 金二十錢より 金六十錢迄

◎送料 各八錢

◎諸かもじ製造販賣

東京市神田區喚島町十七番地【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

◎小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹 ― 本郷三丁目 兼康 ― 淺草駒形 百助 ― 淺草駒形 紅勘 ― 神田區須田町 三井屋 ― 日本橋通二丁 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 橘町四丁目角 島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店
外全國到る所の小間物店にあり

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼ねて一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を頒布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名　評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし●第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戶中村しけ子方

新潟支會

社告

●前金切れにて會費未納の方は此際何卒至急御送金下され度御依賴申上げ候

振替口座東京一〇六〇〇番

●今月の本誌には會員各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置候

明治四十二年六月　大日本婦人衛生會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黒塗箱入　送費九錢）　六拾錢（桐箱入　送費六錢）

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麹町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁共二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁共二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤清之丞

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

明治四十二年六月十六日印刷
同　年六月二十日發行
[illegible]

（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍